

平成22年度

まちづくり懇談会 記録誌



平成23年 3月
入 善 町

《 目 次 》

1. まちづくり懇談会の概要	1
2. 懇 談 会	
議題Ⅰ「新総合計画の基本構想について」（町提言）	
議題Ⅱ「各地区設定のテーマ」（地区提言・要望等）	
・入善地区	11
・上原地区	19
・青木地区	27
・飯野地区	37
・小摺戸地区	43
・新屋地区	49
・棚山地区	55
・横山地区	61
・舟見地区	67
・野中地区	73
・ご意見カード	81

1. まちづくり懇談会の概要

(1) 実施要項

(2) 開催次第

(3) 参加者数及び 各会場の内容

—— 平成22年度「まちづくり懇談会」実施要項 ——

1. 趣 旨

入善町では、人口が減少など町を取り巻く状況の変化に対応するため、昨年から新総合計画の策定を進めてきました。まちづくりの基本的方針を示した基本構想を町民の皆さんに説明するとともに幅広くご意見を伺い、今後の町政に反映させるためまちづくり懇談会を開催する。

2. 開催テーマ 「新総合計画について」

3. 開催内容

(1) 懇 談 会 全町議題Ⅰ「新総合計画の基本構想について」

地区議題Ⅱ「地区設定のテーマについて」(1～3程度自由設定)

(2) 出 席 者 町長、副町長、教育長、総務課長、企画財政課長、建設下水道課長、健康福祉課長、地元出身課長等

(3) ご意見カード

・出席者にまちづくり、地域づくり等について、意見、提言、要望等を記入してもらい、終了後に回収する。

・記録として意見提言をまとめ、町政執行上の参考とする。

(4) 記 録 懇談会の内容を取りまとめ、各地区に配布及び町ホームページで公開する。

4. 開催期日

平成22年11月8日(月)～12月3日(金)

5. 開催時間

午後7時30分～午後9時

———— 平成 22 年度 まちづくり懇談会 開催次第 ————

日 時： 平成 22 年 11 月 8 日（月）～12 月 3 日（金）

午後 7 時 30 分～

会 場： 町内 10 地区公民館等

1. あいさつ

2. 町政についての現況報告

3. 懇 談 会

議題Ⅰ「新総合計画の基本構想について」（町提言）

議題Ⅱ「各地区設定のテーマ」（地区提言・要望等）

4. 閉 会

—— まちづくり懇談会 参加人数及び各会場の内容 ——

地 区 名	参加人数	2 1 年 度	開 催 日	前 年 比
入 善	1 0 5	1 3 5	1 2 月 3 日(金)	△ 3 0
上 原	9 0	7 1	1 1 月 2 5 日(木)	1 9
青 木	6 5	4 0	1 1 月 8 日(月)	2 5
飯 野	7 0	7 2	1 1 月 2 4 日(水)	△ 2
小摺戸	4 0	4 1	1 1 月 1 6 日(火)	△ 1
新 屋	1 0 0	1 1 3	1 1 月 1 5 日(月)	△ 1 3
梶 山	5 8	6 3	1 2 月 2 日(木)	△ 5
横 山	6 0	8 8	1 1 月 2 6 日(金)	△ 2 8
舟 見	5 0	5 1	1 1 月 1 9 日(金)	△ 1
野 中	4 4	5 8	1 1 月 9 日(火)	△ 1 4
合 計	6 8 2	7 3 2		△ 5 0

日		1 2 月 3 日 (金)	1 1 月 2 5 日 (木)
地 区		入 善	上 原
開催場所		うるおい館・イベントホール	産業展示会館
区長会長		水野 勝利	森 敏行
司 会		山崎 進	森 勉
座 長		米澤 亘	池田 喜美江
地域課題		・雇用促進住宅 ・町の自然エネルギー活用への参画状況 ・コミュニティバスのらんマイ・カー ・入善町としての事業仕分け	・子育て支援 ・高齢福祉 ・地域の活性化 ・災害の危機管理 ・災害時の応急訓練 ・防犯パトロールの強化 ・子どもの登校・下校時の安全確保 ・ゴミ出しの簡素化 ・再生広場の活用 ・ゴミ出しのマナー ・カラス、野良猫、野良犬の駆除対策
出席者	三 役	町長 副町長 教育長	町長 教育長
	課 長	総務課長 企画財政課長 住民環境課長 健康福祉課長 農水商工課長 建設下水道課長 議会事務局長	総務課長 企画財政課長 住民環境課長 健康福祉課長 建設下水道課長 教育委員会事務局長 消防署長
	議 員	五十里 隆章 大橋 美椰子	元島 正隆 中瀬 範幸
	事務局	財政係長 企画調整係長 企画調整係	財政係長 企画調整係長 企画調整係
参加者数		1 0 5 人	9 0 人
世 帯 数		2 3 2 0 世帯	9 7 8 世帯

日		1 1 月 8 日 (月)	1 1 月 2 4 日 (水)
地 区		青 木	飯 野
開催場所		働く婦人の家	農村環境改善センター
区長会長		川原 満秋	石川 昭男
司 会		北川 修	石田 明雄
座 長		北川 修	石田 明雄
地域課題		・道路の陥没 ・防災 ・高齢者の自動車免許返納 ・スクールバス	・飯野地区全体の中心的拠点施設となる公民館建設の地元要望の実現 ・入善町西部地区の土地利用計画に基づいたまちづくりの推進 ・海洋深層水を活用した企業誘致と園家山周辺の環境整備、健康増進施設の設置 ・防潮林の早期整備による生活安全対策
出席者	三 役	町長 教育長	町長 教育長
	課 長	総務課長 企画財政課長 健康福祉課長 建設下水道課長 教育委員会事務局長 消防署長 CATV放送センター所長	総務課長 企画財政課長 健康福祉課長 農水商工課長 建設下水道課長 教育委員会事務局長
	議 員	松澤 孝浩	山下 勇 長田 武志 笹島 春人
	事務局	財政係長 企画調整係長 企画調整係	財政係長 企画調整係長 企画調整係
参加者数		6 5 人	7 0 人
世 帯 数		5 6 4 世帯	1 5 7 8 世帯

日		11月16日(火)	11月15日(月)
地 区		小摺戸	新 屋
開催場所		小摺戸公民館	新屋公民館
区長会長		松島 唯志	坪野 和夫
司 会		城崎 久満	白又 勲
座 長		城崎 久満	長谷 一司
地域課題		・陸砂利運搬ダンプカーの分散通行 ・統合保育所整備後の小摺戸保育所跡地の利用	・保育所統合による新屋保育所の利用計画 ・有害鳥獣対策 ・健康福祉体制の充実 ・防災無線の増設 ・町単事業補助金
出席者	三 役	町長 副町長 教育長	町長 副町長 教育長
	課 長	総務課長 企画財政課長 健康福祉課長 建設下水道課長	総務課長 企画財政課長 税務課長 健康福祉課長 農水商工課長 建設下水道課長 教育委員会事務局長
	議 員	鬼原 征彦	鬼原 征彦
	事務局	財政係長 企画調整係長 企画調整係	財政係長 企画調整係長 企画調整係
参加者数		40人	100人
世 帯 数		402世帯	540世帯

日		1 2 月 2 日 (木)	1 1 月 2 6 日 (金)
地 区		梶 山	横 山
開催場所		梶山公民館	横山漁村センター
区長会長		上田 俊男	佐藤 嘉一
司 会		西嶋 克巳	尾田 勝昭
座 長		上田 俊男	尾田 勝昭
地域課題		・ 少子化改善策として、子育て環境の改善 ・ 高齢化と社会福祉	・ 特別養護老人ホームの拡充 ・ 横山地区から国道 8 号線へのアクセス道路 ・ サンビレッジグラウンドの照明設備
出席者	三 役	町長 副町長 教育長	町長 副町長 教育長
	課 長	総務課長 企画財政課長 健康福祉課長 建設下水道課長 教育委員会事務局長	総務課長 企画財政課長 健康福祉課長 建設下水道課長 教育委員会事務局長
	議 員	谷口 一男	松田 俊弘 佐藤 一仁
	事務局	財政係長 企画調整係長 企画調整係	財政係長 企画調整係長 企画調整係
参加者数		5 8 人	6 0 人
世 帯 数		7 7 9 世帯	5 5 2 世帯

日		11月19日(金)	11月9日(火)
地 区		舟 見	野 中
開催場所		舟見コミュニティ公民館	農村婦人の家
区長会長		岩崎 泰宏	中島 博之
司 会		西島 好和	酒井 良博
座 長		西島 好和	酒井 良博
地域課題		・冬季雪対策 ・交通移動手段 ・観光のまちづくり	・舟見中学校の統合問題 ・安全、安心のまちづくり ・生活・環境の改善
出席者	三 役	町長 副町長 教育長	町長 副町長 教育長
	課 長	総務課長 企画財政課長 建設下水道課長 健康福祉課長 農水商工課長 会計管理者 教育委員会事務局長	総務課長 企画財政課長 建設下水道課長 健康福祉課長 住民環境課長 農水商工課長 教育委員会事務局長
	議 員	九里 郁子 野島 浩	九里 郁子 野島 浩
	事務局	財政係長 企画調整係長 企画調整係	財政係長 企画調整係長 企画調整係
参加者数		50人	44人
世 帯 数		435世帯	221世帯

2. 懇談会

入善地区

開催日：平成22年12月 3日(金)

会 場：うるおい館イベントホール

議題Ⅰ 「新総合計画について」

★企画調整係長

〈 主旨説明 〉

新総合計画の基本構想について、この策定については昨年度より作業を進め、基本構想の審議については、5回の審議会を開催し9月の議会で議決されました。その後、広報10月号において皆さんに内容をお知らせしたところです。

基本構想とはどういうものかですが、基本構想の流れとして、まず序論の部分として、町の概況、町を取り巻く環境の変化、町民の皆さんの声、それらから導かれる主要課題となります。そして、その課題に対応するため、基本構想として、町の将来あるべき姿をあらわす将来像があり、将来像を実現するための基本的な考え方となる基本理念やまちづくりの基本テーマなどを示した10ヵ年の計画です。基本構想を実現していくための基本計画や実施計画が、この後、策定されます。具体的にどういう事業を行うのかについては、実施計画の中に記載してあります。この作業については、現在策定作業中で、6回目の審議会を開催し基本計画の考え方の説明をしたところです。もう少しで2つの計画の策定が終わりますので、またその段階で、皆さんにお知らせしていきたいと思います。

この計画策定にあたり、さまざまな調査を実施してきました。町の全世帯を対象にした住民意識調査、町出身の県外在住者を対象にした意識調査、インターネットを通して三大都市圏の在住者を対象にしたWEB調査、町内企業・団体へのヒアリング調査、町内の各種団体の若手の方々に議論していただいた「まちづくりワークショップ」、その子ども版として小中学校一校ずつで「子どもまちづくりワークショップ」を行って、さまざまな声をお聞きました。住民意識調査の結果については、昨年のまちづくり懇談会で説明をしたとおりです。

さまざまな調査をしましたが、いずれの調査結果からも共通した結果が現われています。町の良い点は、「水が豊富でおいしい」「米、海産物などが豊富でおいしい」「安全で安心して暮らすことができる」また、「自然が豊かである」ことがあげられています。一方、町の問題点は、「高齢化による問題」「少子化の原因である働く場の整備、晩婚化問題など」「少子高齢化による地域活力の低下」などがあげられます。

これらの調査から導かれる入善町の主要課題は、「少子化と人口減少への対応」「超高齢社会への対応」「地域産業の活性化」「入善町の魅力発信」「安心して暮らせる安全な地域の実現」「支え合いによる地域づくり」などがあげられます。

これらのことを踏まえて、これからのまちづくりの基本的な考え方は、次のとおりです。

私たちが暮らす黒部川扇状地は、豊かな水と恵みにあふれ、私たちに大きな力と夢を与えてくれています。この水と扇状地の恵みという貴重な財産は、先人たちの多くの苦労と知恵で築かれ、今日まで受け継がれてきたものです。

私たちは、先人から受け継いだ財産を守り、発展させるよう活かすとともに、私たちを取り巻く環境の変化に対応して、生涯にわたり町民が安心して、健康で快適に暮らせる生活基盤を創り上げ、ともに支え合い、お互いの役割を担い合える人を育てていきます。

そうすることで、誰もが夢と誇りを持って幸せに暮らすことができる環境と人の「きずな」を、次の世代に確実に引き継いでいきたいという思いを込めて将来像を設定しました。

将来像として『扇状地に 水と幸せがあふれるまち 入善 ～人のきずなで未来へつなぐ～』としました。

将来像を実現するための基本的な考え方となる基本理念として、1つ目は先人から受け継いだ貴重な財産を「いかす」ことにより、豊かな自然環境や産業基盤を築き、うるおいあるまちづくりを目指していきたい。

2つ目は、うるおいある生活の中で、健康で快適に安心して暮らせる生活基盤を「つくる」ことにより、生涯暮らしたいと思う豊かなまちづくりを目指していきたい。

3つ目は、豊かな生活の中で、心豊かな人を育み、みんなが協力して地域を「になる」ことにより、将来にわたり元気なまちづくりを目指していきたい。という、3つの理念です。

将来像・基本理念を受けた基本的な方針となるまちづくりの基本テーマとして、3つ定めています。基本理念のキーワードを使い、『水と大地の恵みを「活かす」まちづくり』、『快適・安心・健康の暮らしを「創る」まちづくり』、『人が集い、力を合わせて地域をともに「担う」まちづくり』にしました。

3つの基本テーマに2つずつで6つのまちづくり目標を設定し、さらに、6つのまちづくり目標に2つずつで12の政策の柱を設定しました。

・基本テーマの『い か す』

まちづくりの目標1：豊かな水、みどりを守り、未来へつなぐまちづくり

豊富な水資源や自然環境などの保全、活用を図り、地球温暖化防止対策や新エネルギーのさらなる活用を図りながら、豊かな環境を次の世代へ引き継いでいきたい。

まちづくりの目標2：地域資源を活かした魅力あるまちづくり

地域資源を活用した商品開発による地域ブランドの創造など、農林水産業や商工業の振興を図るとともに、地域資源の魅力の発信をとおしながら、産業と観光でにぎわうまちを目指していきたい。

・基本テーマの『つ く る』

まちづくりの目標3：快適に安心して暮らせるまちづくり

時代の変化に対応した地域交通網や住環境の整備をしながら、快適に暮らせる生活基盤を創り上げ、また、防災や防犯に対する体制強化など、町民が安心して暮らせるまちを目指していきたい。

まちづくりの目標4：健康で幸せに生涯暮らせるまちづくり

子育て環境の整備、高齢者や障がい者が安心して暮らすことができる環境づくり、心身ともに健康に暮らせる社会づくりを進めながら、町民が健康で幸せに生涯暮らせるまちを目指していきたい。

・基本テーマの『に な う』

まちづくりの目標5：文化を守り、心豊かな人を育てるまちづくり

将来を担う子どもたちが、心豊かで郷土愛にあふれ、たくましく育つよう教育環境の整備を図り、伝統文化の保存・継承、生涯学習や生涯スポーツの推進など、ふるさとの文化を守り、心豊かな人を育てていきたい。

まちづくりの目標6：町民と行政がともに支えるまちづくり

町民がともに支え合う地域コミュニティづくりの推進、効率的な行財政運営や協働のまちづくり

〔入善地区〕

など、町民と行政がともに支える健全なまちを目指していきたい。

さらに 12 の政策の柱があって、ここまでの基本構想となっています。これらを通して、10 年間でまちづくりをしていきたいと思っています。

実際にどんな事業をしていくのか、この後については基本計画・実施計画の中で、いつ、どこで、何をするのか具体的な事業を策定して、終わり次第、概要版や広報などをおして皆さんにお知らせしていきたいと考えています。

☆住 民

実施計画のサービスの面での何か具体的な計画を、1 つぐらい披露してもらえないか。

★企画財政課長

まだ確定ではないのですが、基本構想については、水をクローズアップしています。この保全として条例の制定や地下水管理システムを作っていきたい。また、新エネルギーの利活用を図っていき、そのための調査事業を取り組んでいきたいと考えています。

まちづくり目標の 2 では、農商工連携の機運の高まりから協議会の設置や、地域交通、特にバスの見直し運行を図り、地域コミュニティの耐震化されていない 4 つの公民館は、前期 5 年の計画で対応していきたいと考えています。

もうしばらくで、最初 3 年間の計画は、皆さんに広報等でお知らせできると思います。

議題Ⅱ 「入善地区設定のテーマ」

(1) 雇用促進住宅について

☆住 民

雇用促進住宅の入居者が減少しつつあります。町はどう考えているのか聞かせて欲しい。

★農水商工課長

雇用促進住宅の管理運営は、雇用能力開発機構が行っていきまして、今日現在の入居者数は入善宿舍が 79 戸中 6 戸、棚山宿舍が 80 戸中 48 戸です。

平成 19 年における閣議決定で、雇用促進住宅は平成 33 年度までに廃止・譲渡、又は自治体に譲渡、またその内の半分程度は、平成 23 年度までに実施するという決定がされており、その半数に雇用促進住宅入善宿舍が含まれたということです。

平成 20 年に町は譲渡の打診を受けておりますが、機構は新規入居を停止し、平成 22 年 11 月までに入居者に対し明け渡しを勧めていく予定でした。しかし、経済状況の悪化から、雇用促進住宅を、住居を喪失した離職者の緊急の入居場所としたことなどから、明け渡し時期が延長され、現在入居者への退所は求めていませんが、廃止の方針は変わっていないので、これまでと同様の手続きを進めば、平成 26 年 11 月に廃止される予定です。

入善宿舍の譲渡については、建物の老朽化や設備・家賃等があり、総合的に検討しているところです。しかし、住宅については人口問題等もあり、重要な課題ですので、町にとって住宅政策の指標となる住宅計画を策定して、雇用促進住宅については検討を進めていきたいと思っています。

☆住 民

雇用促進住宅が1つの地区になっていて、なくなると町内24地区が23地区になります。人口も少なくなり、運動会参加や行政の依頼に応えられなくなっています。人口の定住について、町の考えを教えて欲しい。

★副町長

人口減少は、町が一番頭を痛めている問題で、できれば皆さんの提言をいただければ幸いです。少子高齢化に対応するには収入が一番大事で、企業誘致も必要だと考えています。

運動会の参加についてはどこもひどく、誰もが参加しやすく種目等を見直すことも必要だと考えています。

新総合計画の基本計画の中で、住環境の整備や市街地の空洞化対策をしながら、安全・安心なまちづくりをしていきたいと考えています。

★企画財政課長

若者が町に定住してくれるには、働く場所があるか、または、働く場所が近いことが大前提です。近隣への通勤のしやすさなども含めて考えて、収入を確保できるように企業誘致を考えています。

子どもを育てやすい環境づくりとして、保育所の整備、保育料の低減、医療費助成の拡充など、他の市町より暮らしやすい魅力あるまちづくりを行っていきたいと考えておりますが、具体的な施策については、町民の皆さんから提言をいただきたいと思います。

☆住 民

実質的に町内が段々小さくなっていきます。町として、区長会の統合・合併を具体的に考えているのか。

★総務課長

地域の色々な組織が、高齢化によって弱体化し、婦人会組織も解散した町内がいくつかあり、現在、区長さんを中心に行政に協力いただいています。今、パートナーシップ事業のモデル地区として、野中・櫛山地区で、どんな地域づくりが良いのか、意思決定をどうしていくか、青年層がいない地域づくり・組織のあり方等を検討いただいています。行政から100%示せる状況ではないので、地域と共に協議いただき、広げていきたいと考えています。

(2) 町の自然エネルギー活用への参画状況について

☆住 民

五十里の風力発電についてですが、風があっても止まっていることが多いようですが、現状の稼働率はどれくらいで、発電量は当初目標に達しているのか。また、維持費を含めて採算性はどうか説明してください。また、太陽光発電の採算状況もお願いします。

★建設下水道課長

風力発電についてですが、風があっても止まっているのは、風速が3m以下の場合は回転開始の

〔入善地区〕

風速が得られなかったり、年2回のメンテナンス作業で時間がかかったり、また、安全確保のため半径30km圏内に雷雲が発生すると、自動で止まる仕組みとなっているためです。

稼働率については、風力発電の計画年間発電量252万kWhに対し、平成21年度の実績は、272万kWとなっていて計画の1割増となっています。

今年度も、4月から8月までは風が弱かったものの、9月末現在で103万kWhを発電しており、計画を上回っています。

採算性については、年間の維持管理費が約900万円あまり、町が建設に際して実質に負担した金額は、一年あたり約700万円となっており、それらを加えた金額は年間約1,600万円となっています。一方、発電量をすべて売電した場合、年間約3,400万の収入となり、かかる経費と比較しても採算は十分とれていると考えています。しかし、今後は新規増設の採算性は難しいと考えています。

★企画財政課長

風力発電については、当時4億円で建設できたものが、世界的に需要が増えており現在約10億円近くまで上がっていて、今後、建設費用がかかり採算が取れないのでしばらく休止と考えている。

太陽光については、町内200戸の設置を目標にして毎年15戸の補助を予算化しています。町では、うるおい館や、平成22年度で4ヶ所の学校、1ヶ所の統合保育所に設置しました。

小水力発電については、町には黒東合口用水がありますが、1,000kWh級のものでは10年～20年経っても採算が取れないことがわかりました。そこで、町の農業用水路には豊富な水が年間を通して流れているので、3kWh程度のマイクロ発電ができないか、黒部川扇状地研究所とタイアップしながら検討していきたいと考えています。

しかし、小水力発電を実施するには、水利権の取得などの制度上の問題など、大きな壁がありますが、最近では、水利権の取得に関する規制緩和や、水利権の許可権限の国から県への移行が報道されていることから、その動向を慎重に見極めながら、小さな用水での小さな発電の調査を進め、採算が合えば普及を進めていきたいと考えています。

★住 民

太陽光の採算状況がわからなかったのをお願いします。

★住民環境課長

太陽光の採算性については、設置費用が1kWh当たり約70万円で、一世帯4kWhのものでは約280万円の投資が必要です。4kWhのものであれば一世帯当たり国県町あわせて43万円の補助があります。以前より売電単価が2倍の48円になりましたが、採算が取れるまで15年程かかります。太陽光は、採算を考えるよりも将来の子どもたちのため、地球環境を思って設置して欲しいと思います。

★住 民

風力発電は、現在は1,800万円の利益があるが、今後保障期間が終わり、経費が加算され採算が取れなくなるのではないかと。町の考えを聞かせてほしい。

★建設下水道課長

現在の風車は、浄化センター整備後、施設全体の電気をまかなうことが原則になっていますが、現在は整備中のため売電が多くなっています。雷等で故障した場合は、保険に加入していますし、全国では羽が折れたりするケースがあるが、ドイツのメーカーが責任をもって、定期的に点検・整備をしてもらっています。また、メーカーには、国からもメーカーに対して通達も出ているので問題ないと思います。

(3) コミュニティバスのらんマイ・カー

★住 民

のらんマイ・カーの1日あたりの乗客数、バスにかかる経費と収入を教えてください。

★農水商工課長

のらんマイ・カーの1日あたりの乗客数は、58.5人で年間21,000人あまりとなっています。ルートについては、毎日運行の新屋線、奇数日運行の飯野・野中線、偶数日運行の横山・小摺戸線の3ルートで、1日10便運行しています。

平成21年度の年間経費は約1,340万円で、運賃収入が320万円あまり、県の補助金等が約280万円で合計約600万円の収入があり、差し引き約740万円を町が負担しています。

(4) 入善町としての事業仕分けをしてみたらどうか

★住 民

射水市では、10月に市民公開で事業仕分けが実施されました。12月の広報で入善町の収支が出ていますが、事業仕分けをして、町民に数字を示すことにより、町民にどのようなところにどれだけの金額が使われているのかわかります。事業仕分けをする意思があるのか聞かせて欲しい。

★総務課長

事業仕分けについてですが、町では「仕分け」という言葉は使っていませんが、平成17年度から行財政改革に取り組んでいます。260項目以上の全事務事業の見直しを、全職員が一からの見直しをして、それを基に行財政改革町民懇談会を設置して1年間検討していただき、見直しをしています。10ヵ年計画の5ヵ年経過しましたが、その都度、町民の皆さんに広報・ホームページ等で案内し、公表しながら取り組んでいきたいと思っています。

○ その他

★住 民

12月の広報で公表されている町職員の給与水準についてですが、県内ではどうなのか、民間企業3～4社と比較してどうなのか、年代別、男女別、高校・大学卒による初任給、退職金はどうか公表してもらえないでしょうか。

〔 入善地区 〕

★総務課長

町給与については、毎年12月の広報で、職員数の変遷、級別の職員数、人件費の状況、平均給与、初任給、経験年数月額、職員手当、一時金（ボーナス）、退職手当の実績を公表しています。初任給については、国と同じものを採用しています。また、特別職、町長、議員等の給与・報酬額についても同様に公表しています。基本的には、人事院勧告に準拠して、毎年議会に提案をして条例改正しています。

民間との比較については、県内の市町村は人事委員会がないので、町独自の調査はしていませんが、県の人事委員会が初任給等を調査していますが、公務員は172,200円、一般事務職の大学卒が平均193,000円あまりで、約2万円の差があります。男女別の給与の差は基本的にはありません。

退職金については、公表済みの平成21年度実績は、自己都合が1人当たり平均760万円あまり、定年退職が1人当たり平均1,950万円で、県内15市町村の中で入善町は12位となっています。

☆住 民

民間の調査をするという意味はないのでしょうか。

★総務課長

人事委員会がないので、町独自で調べていくことはないので、県の人事委員会が発表する調査結果しかないと思っています。

2. 懇談会

上原地区

開催日：平成22年11月25日(木)

会 場： 産業展示会館

議題Ⅰ 「新総合計画について」

★企画調整係長

〈主旨説明〉入善地区参照

★住 民

新総合計画の内容は一杯書いてありますが、数字目標はいつ入るのでしょうか。

★企画財政課長

基本構想は文字の羅列になっていますが、その他に基本計画・実施計画があり、5年間・3年間の事業等を一生懸命策定しています。数値目標を入れることとしており、広報・概要版等でお知らせしたいと思いますので、よろしくお願いします。

★住 民

新総合計画の基本構想の中の超高齢社会の対応については、ある高齢者の人が「まちなか屋」ができて良かったと言っていました。時代の流れとは言え、商店街は情報の発信地での商店街であるべきです。商店街の活性化をどうしていくか検討して欲しい。

★企画財政課長

商店街の空き店舗をいかに無くしていくか、プレミアム商品券の助成や空き店舗利用者の支援など、町も努力をしています。どうしても車の利用により購買力が他市町村に流出しています。皆さん、できるだけ地元で買い物をしていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

★住 民

新総合計画の「いかす」の中で豊富な水資源という話があるが、限りがあるものだと思う。入善町にはいろいろな企業が来て、地下水を汲み上げて仕事をしているが、景気が良くなると使用量が増えていく。無制限で汲み上げを許可しているのか。

★企画財政課長

年間取水量は、県の条例があり届けなければなりませんが、最近の企業については報告を受けています。制限については条例上ありませんが、県への届出、指導をしており、県の規制に従っていきたいと思っています。

★住 民

地球環境問題についてですが、水力発電への対応はどういう考えを持っているのか。

★企画財政課長

黒東合口用水で1,000kWh級の発電ができないか調査しましたが、とても元が取れないという結果が出ています。そこで、農業用水を使って10kWh級の発電ができないか黒部川扇状地研究所と共に調査研究しています。しかし、水利権などの規制をどうやって乗り越えていくか、国土交通省と協議しながら取り組んでいきたいと思っています。

☆住 民

国土交通省についてインターネットを見てみると、排水路では簡単な書類でやれるようなことが書いてあり、昔みたいな書類は不要だと思っています。用水路の利用で、運動公園の水車は利用価値があると思うのですが。

★企画財政課長

排水路であれば、言われるとおり簡単に許可がでるようだが、排水が用水にかかわるようだと、発電に関しては許可が難しく、町では10kW未満の家庭用を考えています。

議題Ⅱ 「上原地区設定のテーマ」

(1) 子育て、高齢福祉支援と地域の活性化について

☆住 民

① 子育て支援について

今、少子高齢化が進む中、核家族化や共働き家庭の増加など、社会環境が著しく変化し、仕事と家庭生活の両立（ワークライフバランス）が重要な課題となっています。しかし、家事、育児、介護など女性が担っているのが実情です。

仕事と生活の両立支援、さらには子どもの健全育成のためにも、男性の育児参加が求められます。男性の育児参加の促進として育児休業があげられますが、取得率は女性が約90%に対して男性が1%と非常に低い状況です。男性の育児休業取得には、意識啓発と職場の上司、同僚等の理解と支援が必要であり、住民、行政、企業が一体となって取り組むべきと考えますが、町の見解と具体案があれば聞かせて欲しい。

②子どもの居場所づくり

地区・自治公民館を利用して、地域の人々の支援で高齢者と子どもが集い、交流する場できないものでしょうか。そうすれば、高齢者の能力の活用と生きがいにもなります。元吉原保育所は福寿会でよく活用されているようなので、子どもたちの交流の場としても検討してもらいたい。

③高齢者支援

高齢者が不自由になっても施設に入れず、将来がとても不安とよく聞かれます。そこで、認知症予防や生活自立のために男性料理教室、介護教室の開催の要望があり、地区婦人会と食生活改善推進協議会、社会福祉協議会と連携して地区で対応していきたいと思っています。町としての考えを聞かせてもらいたい。

④地域の活性化

近隣の連携感が薄れ、他人行儀の地域になりつつあります。また、若者の地域参加が少ない今日です。「声かけ運動」を活発にし、地域全体で見守り、支え合い、助け合っていく気運をつくるのが大切と考えます。また、祭りなど楽しい地域行事の工夫、企画に努力し、人と人との絆づくりが大切と確認し合いました。町のご指導とご支援をお願いします。

また、当地区の区長の任期が1年というところが多く、地域の活性化の視点から問題視されています。各地区で充分話し合う必要があると思うがどうか。

★健康福祉課長

①男性の育児参加

子育ては父親と母親の共同作業ですが、1日30分程度と男性の子育て時間が少ないのが現状です。

また、育児休業は男性も取得できますが、取得率はわずか1%にすぎないようです。

町では「パパとママの育児教室」として男性の育児参加事業を開催し、おむつ交換などの実技指導を行っています。その中で、育児休業制度の周知等をしていきたいと思っています。

③高齢福祉

町では施設の整備を進めていますが、全ての要望に応えるのは難しく、在宅で少し頑張っていたかなくてはけません。「声かけ声かけられ」ということで、高齢者の見守りのためのケアネット活動を社会福祉協議会が中心に推進しています。また、上原地区の介護教室や男の料理教室等の地域活動がケアネット拡大の原動力となり、一人暮らしの高齢者を見守るケアネット活動も広がっていくと思います。町としては事業支援や指導者の派遣など、相談いただければ積極的な支援ができると思いますのでよろしくをお願いします。

★教育委員会事務局長

②子どもの居場所づくり

現在、放課後の子どもたちの居場所づくりの支援として、学童保育や子どもかがやき教室を実施しています。上原地区では、子どもかがやき教室を実施していますが、今後は、全小学校区で学童保育を実施したいと考えており、当地区では上青小学校で実施できないか検討しています。学童保育の実施にあたっては、運営委員会の組織化や指導者の確保など地区の協力が不可欠であり、要請があればいつでも説明に伺いますので連絡していただければと思います。

公民館の運営にあたっては、地元で地区公民館運営協議会を設置して、年間を通して三世代交流会などさまざまな活動が計画されており、ぜひ参加していただきたいと思っています。

また、公民館の有効活用についても地域で十分検討していただき、地域コミュニティの活性化にご協力いただければと思います。

★企画財政課長

④地域の活性化

さきほど町長の町政報告にもありましたが、地域力の低下が非常に懸念されています。そこで、新総合計画の中で「絆」を強めていきたいとしております。

区長については、仕事が増えているなどのご意見があり、そのため今年度から地域コミュニティのあり方や地域に合った組織づくりを検討するため、地域コミュニティパートナーシップ構築事業に取り組んでおり、組織のあり方や運営について1年間話し合っていました。

今後は、少子高齢化で地域コミュニティが維持できるか心配しています。町では、新たな取組みに支援を行うなど地区への補助金の一括交付金化、地域コミュニティ強化につながる事業を検討していきたいと思っています。皆さんも地域コミュニティの持続可能なあり方を考えていただきたいと思っています。

(2) 防災・防犯について

★住 民

過去に災害が少ないため、住民が災害に対する危機意識が低いのが現状です。しかし、災害対応ができる地域を持っていないと災害を拡大させたり、命を危険にさらすことになります。

そこで、災害発生時の初期行動や避難場所の位置、日頃からの近隣とのコミュニケーションの必要性など基本的なことを防災無線により定期的に周知できないか。

また、防災訓練についてですが、防災訓練は必要ですが形式的で実際の効果が疑問視されます。例えば、上原地区内の集落的な訓練や班ごとに訓練してはどうか。

次に、防犯についてですが、8号線沿に車上や事務所荒らしが多く、車や家に鍵を掛けるよう防災無線で注意を呼びかけてもらっているが、まだ防犯に対する意識が薄く、無施錠が多いです。町ぐるみの運動を活発化させて防犯意識を高めることができないか。

また、犯罪の起きない環境づくりも必要で、防犯パトロールは有効な手段として各団体が協力して実施しています。しかし、隊員不足で月数回程度となっており効果が出ているとは思えません。そこで、パトロールを強化するため、隊員資格や使用車両取得の簡素化、官民一体となったパトロールの実施等の検討をお願いしたいと思います。

また、不審者に対する子どもの登校下校時の安全確保についても同じです。私たちも「声かけ運動」を実施して犯罪防止に努めなければいけません、パトロールの強化が必要です。パトロール隊の増強しやすい環境づくりをお願いしたいと思います。

★総務課長

○防災・防犯について

防災については、町では毎年、持ち回りで防災訓練を実施しています。今年度は、区長会を始め、自主防災会や住民の皆さんにご協力いただきまして、上原・青木地区において実施しました。

この防災訓練では、地区自主防災会を主体とした災害時の各々の役割の確認、安否確認・避難訓練、初期消火訓練など、より実践的な訓練を行うことにより、地域防災力を高めることを目的としています。また、この訓練を通して地区の皆さんが「防災」について考え、話し合うためのきっかけにしていきたいと考えています。

防災無線の定期的な周知については、毎月1日と15日、20日、防犯の日を含めて案内しています。

今回の訓練を通して、課題点も多く見つかったと思います。出前講座には、町、消防が行きますが、県の自主防災アドバイザーも積極的に利用していただきたいと思います。

訓練については形式的ではないかという苦情もありましたが、本部の運営にあると感じています。今後は、より実践的な訓練になるよう検討していきたいと思います。

防犯については、全地区でパトロール隊を結成していただいております、犯罪の抑止に大きく寄与していると思っています。感謝申し上げます。

また、県民性の家の鍵を掛けないというのは、全国的にも悪いデータが出ています。入善町でもその通りで、昨年、上原地内で車上あらしが多発し、緊急に合同のパトロール隊の出動式を行っており、地元の地道な活動の必要性を感じました。パトロール隊車両登録の簡素化についても警察署と協議していきたいと思っています。

子どもたちの登下校で近隣の不審者情報については、昨年は2件ありました。全て学校の安全対策として指導しています。

(3) 環境保全について

★住 民

ゴミ出しの簡素化についてですが、入善町は燃える物、燃えない物、粗大ゴミ、不燃物などに細かく分けて、非常に繁雑で間違いが多く、ゴミステーションにもたくさん残されています。富山市のように、新川広域圏でも燃えるゴミと燃やせないゴミと大きく分けて出せないのか。

また、再生広場の場所やどんなゴミを出していいのか、皆さんに理解されていないので周知してもらいたい。「ポイ捨て」マナーの徹底についてもお願いしたい。

カラスと野良猫、野良犬については、カラスの苦情が多く、鉄砲での駆除や捕獲檻の設置をお願いしたい。また、吉原地区では、猫や犬を海岸に捨てていく人が多いので、モラルの啓発をして欲しい。

★住民環境課長

○環境保全について

ゴミ出しの簡素化については、新川広域圏では、燃やせるゴミ、燃やせないゴミ（ビニプラ）、粗大ゴミ（金属・ガラス）に分別しています。

町のゴミ処理費用と広域圏の負担費で、年間3億3千万円程で住民1人あたり約12,000円です。燃やせるゴミは、エコぼーとで焼却処理を行っています。富山市のようにビニプラ類を混ぜて焼却すると、燃焼温度が高温となり焼却炉を傷める原因になります。高温に対応できる炉に改良するためには、35億円が必要とされています。広域圏では、次期更新まで10数年あり、現状のまま分別収集にご協力をお願いしたいとのことです。

再生広場の活用ですが、各小学校区に1箇所ずつの再生広場を常設の資源回収施設として設置しており、容器包装リサイクル品と新聞雑誌を受け入れています。再生広場への資源物の持込や利用については、広報（11月号）や町ホームページ、出前講座、ケーブルTVにて実施していますが、まだ、理解されていない地区があり、要望があれば出前講座に行き説明に伺うのでご利用いただきたいと思います。

ゴミ出しのマナーですが、単なるゴミの出す日を間違えることは高齢者に限らず誰でもあり得る事ではありますが、それ以外のことで指定日を間違えて出す高齢者の方へは、ケアマネージャーや民生委員が行う支援内容を調査し、支援者と連携しながらごみの排出やリサイクルしやすい環境づくりに努めていきたいと考えています。

ごみのポイ捨てについては、個々のモラルの問題と考えていますが、町で毎年開催しているクリーン入善7129大作戦を通じ、親子で、又は三世代で実施することにより、1人ひとりがきれいで住みよい地域づくりへの意識高揚に努める一方、広報やケーブルTVでマナーの醸成に努めてまいりたいと思います。

カラスに係る被害や苦情については、依然として多いです。駆除については、捕獲隊に委託し、猟銃と捕獲檻により行なっています。猟銃による捕獲パトロールは、農繁期の4月～8月にかけて、週1回の割合で行なっています。その際、地区からの苦情や要望があれば重点的に見回っています。捕獲檻は年中設置しており、昨年度の設置3基から倍増し、6基で運用しています。基本的に小学校区につき1基という考え方で、地域の要望を勘案の上、必要に応じ区長さん方で調整していただき、設置しています。

両方の方法により、合わせて年間約400羽以上駆除しています。今後も、地区住民の意向をできる限り反映しながら、パトロール重点区域や檻の設置箇所等を決め、精力的に駆除活動を行なっていきたいと思っています。

なお、住民の皆様におかれましては、畑にネットや糸を張ったり、ごみなどの片付けなど、自己防衛としての対応をお願いしたいと思います。

猫や犬などの身近な動物の不幸な最後を迎えないためには、飼い主の責任ある飼育をお願いしたいと思います。また、野良猫、野良犬の数を増やさないためには、安易に餌を与えないことや彼らの餌となるものを発生させない環境づくりと住民の協力が必要と考えています。万一捕獲となった犬は、町が抑留広告を出した後、県の施設へ送ります。一方、猫は登録制度が無いので町での管理が困難で、また、愛護動物の位置づけからカラスのように駆除も困難と考え

ています。いずれにしても、飼い主の責任ある飼育をお願いしたいと思います。

☆住 民

町の条例に公害防止協定があり、各企業は契約を結んでいると思うが、各施設は町に協定を出しているのでしょうか。

★住民環境課長

協定書・覚え書などは、項目によって交わしていないものもあります。

○その他

☆住 民

西中のブラスバンドですが、音の大きさが90デシベルどころではなく、ものすごいです。生徒には悪意はないのですが、放課後、土日も関係ないです。どういう条例になっているのか。

★教育長

吹奏楽の活動は、地区からの苦情を耳にしています。子どもたちの土日の活動は、できるだけ室内でやるよう指導していますが、パート練習で外に出ることもあるようです。夜勤等で睡眠の妨げになっていることを聞いています。時間帯をはずし屋内でやるよう指導していますので、また、そのような状況がありましたら対応しますので、お聞かせいただければと思います。

☆住 民

屋内でしていません。防音など施設の確保をしてほしい。学校でも協定を結ぶ必要があると思う。何の調査もしないでいい加減な回答はやめて欲しい。調査して報告してください。

☆住 民

川に流れてくるゴミの件についてですが、スーパー袋など年中流れてきています。町でペナルティーを与えた事例があるのか聞かせて欲しい。

★住民環境課長

ゴミの不法投棄について、罰を受けた事例は何件かあります。

☆住 民

雪はゴミとみなすのか。ザイがついて仕方がないのですが。

★建設下水道課長

除雪については、流雪溝があり一定の水が確保できれば、雪を流しても良いということで流させてもらっています。同じ流すにしても、一斉に流すとそう言ったことが起きるので、地域の中で話し合って、一斉にではなく順次流してもらおうようお願いします。

☆住 民

サンリッツの除雪について、雪を川に流さないように指導をして欲しい。

〔 上原地区 〕

★建設下水道課長

業者、運転手に指導をしているが、現場によっては、流さざるを得ないので、落雪防止網などで対応していきたいと思いますのでよろしくお願いします。

☆住 民

防災無線についてですが、2区と下部の2つの無線が同時になると何を言っているのかわからないので何とかならないのか。

★総務課長

申し訳ありませんが、防災無線は一斉放送しかできません。3,000 円で防災ラジオが購入できますのでお願いします。

2. 懇談会

青木地区

開催日：平成22年11月 8日(月)

会 場： 働く婦人の家

議題Ⅰ 「新総合計画について」

★企画調整係長

〈主旨説明〉入善地区参照

★住 民

町の最大の問題は、やっぱり人口の問題じゃないかと、私は思っております。私は、ここに転入しましてから25年経ちまして、入善町は、自然環境はずば抜けて良いところだと思います。これは間違いありません。そして、このずば抜けて良い、例えば、食材が豊富で、これは最高級品が並んでいます。とりわけ、景観がすばらしい。入善町は、あらゆるところから景観がきれいに見えます。天候もすばらしい。これほど、温暖で整ったところは、めずらしいと思います。しかし、これに対して自治体は、なるべくならマイナスの要素に壊そうかというふうに、ずうっと努力している風にしか思えません。それに対して、これからどうすれば良いのか。実は人口の問題が最大じゃないかと思っております。この30年間で人口は3,000人減えました。そして、その大半が若い人です。特に、0代から20代くらいまでで言ったら、ほぼ半分減っていると思います。

それから、0代の生まれる人数は、3分の1に減っていると思います。特に、この5年間で1,000人減っています。今年、国勢調査やっていますから、間もなく人口統計が出ると思いますが、今年、国勢調査やっていますからね、2万8千人が、これから、2万7千何人になるのでしょうかね。2万7千を超えるだけでしょうかね。僕がここで聞きたいのは、人口をどうやって増やしたらいいんですか。ここには何一言も言っていません。人口について気にしてらっしゃるようですが、何か対策はあるのでしょうか。もっと具体的に、人口増加にはこうすれば良い。こうすれば増えるんだ、特に若い者についてはこういう風に増えるってことを、町長の口から、具体的な話を、即座にやれることから聞きたいと思います。お願いします。

★町 長

町は人口が減っています。私たちのときから、現在を見ましても、大変、子供さんが少なくなっております。私たちの子供の頃は、少なくとも5～6百人はいたなと思いますけど、今現在は、2百人を切っています。その中で、ならどうすれば良いのか、皆さんと一緒に考えながらやっていくことしかない。ただ、町の方では、大学行っても帰って来る場所がなくなったと、これが大きな問題かなと、町では、できるだけ企業誘致をして、そして、働く場所を見つける。そして、帰って来ていただく。と言うことを、今やっているところであります。

それとまた、やはり皆さん方が自分たちの子どもに、「入善町に帰って来いよ」と言うように声をかけてもらい、この町を好きになっていただく、そういう人を作ってもらう、そういうことを考えながらやるしかない、今のところ思っています。

ですから、今日、このように皆さん方の話を聞いて、どういう方法があるのか、ぜひ、また聞かせていただきたいと思います。良ければ、町がそれを取り上げながら、そのようなまちづくりを目指してやっていきたいと思っています。

★住 民

正直なところ、回答になってないと思います。それで、人は魅力のあるところに集まってきます。私は商売人ですから、お客さんを集めるには魅力をつくるしか、他に方法はないです。

学校で小学校・中学生に勉強しろとおっしゃいますよね。そして、中学校で優秀な生徒は、富

山中部に行かれるとか聞いております。どうやら呉東の方が優秀なようで、東大、京大、早稲田、慶応、あるいは、一流国立大学へ、皆、入って行くと言う風に聞いてますが、その人たちは、ほとんど帰ってきてないんじゃないでしょうか。そこで、この優秀な人材を、全部、役場で採用したらどうですか。それも、一つの方法です。やり方は色々あると思います。もちろん金は掛かるでしょう。事実上、町外に留学させているのと同じことですから、優秀な人材だけ採るって事を、おやりになったらどうですか。それも雇用対策の重要な根幹だと思うんですが、どうですか。

★企画財政課長

☆住 民

ごめんなさい。僕は、町長に聞いているんで、あの、いつもね、そこにいる課長はね、課長なんか、おいでにならなくても結構なんです。町長がおいでいただいて、せいぜい、教育長か副町長がおいでいただければいいんです。課長は結構です。

★企画財政課長

いや、少ししゃべらせていただきたいと思います。今の2つテーマ、先々月でしたか、2時間近くにわたって、色々お話をさせていただきました。また、結論から申しますと、お互いの考え方がなかなか、これだという方策が、なかなか2時間もしゃべって、お互いしゃべりながらも、見つからなかった部分です。今ほど、町長も言われましたように、そう言った、ご意見はご意見として、僕らも頑張りたいと思いますし、優秀な職員を、ここに総務課長がおりますが、一生懸命、採用はしてるかと思えます。そういったことを、すべて否定するわけではありませんが、これから、取り入れていかなければならないのだろうと思っています。いろんなご意見を皆さんから「いや、こういう方法もあるんじゃないか」ということを、また求めたいと思います。また、機会があれば、お話しさせていただければと思っております。機会があれば、私を尋ねてきていただければと思います。よろしくお願いします。

☆住 民

区長さんから危険箇所を13箇所ほど出していただきまして、22年度には、5箇所ほど改善していただきました。目川の通学路の横断歩道を設置していただきましたが、スピードマットが若干引いてないので、ドライバーの速度ダウンには、全然繋がらないような気がします。私が、ずうっと立てっけていまして、危ない目に子供さんが合っているなと、つくづく感じておりまして、要望として、スピードマットをお願いしたいということと、5年越しになりますが、シロウマの通学道路のところで、銀行のATMから上がるところ、タイヤ処理の泉さんの角の一旦停止標識のところで、5～6年前からお願いしているので、今年中にお願いしたい。

★総務課長

支部長さんには、日頃から、地域だけでなく、入善町全体の交通安全につきましても、ご協力いただいております。ありがとうございます。今の箇所に関しては、私共も把握している箇所でありまして、できるだけ早急に対応して行きたいと思えます。また、関係課、関係部署、入善警察署と協議をしていきたいと思えますので、よろしくお願いします。

☆住 民

この基本構想はきれいに流れるようになりました。特に、一番下の、「入善町の主要課題」の

ステップごとの書き方は、昔から見ると、非常にわかりやすくなった。ただし、私から言わせると、非常に話が小さい。昭和2年、米沢元建さんが、入善タイムズで何を言っているか。昭和2年の時点で、入善町の将来構想を、入善タイムズの中で謳っている。黒部市・桜井は、大阪を見習え。泊は、京都を見習え。古い文化を持っているから。芸者を持っているから。入善はどうするか。水を使って、石油の時代は、絶対に終わる。水を主にした産業をやって、名古屋を見習え。昭和2年の時点で、こういう具体的な目標を謳っている時代がある。新総合計画の達成度は、どれだけなんですか？8合目、10合目まで、来ているのですか。このままだと、10年経っても、進捗状況が全くわからず、やったやったというだけじゃないか。また同じことを言っているのではないか。

2つ目、夢が見えない。具体的なものが見えない。

3つ目、農業の収入は当てにならない。日本は約2町歩でしょ。今の時点で、アメリカは約1千町歩。1千町歩の田んぼと2町歩の田んぼが、競争して勝てるわけがない。イギリスは約16町歩。イギリスは、78パーセントの補助をしている。アメリカと日本は、24と27パーセント。面積の割合で行くとアメリカに負ける。イギリス型の農業を狙うような、もっと具体的に、何をやるにしてももっと具体的にしないと、何もわからない。結論的に言うと、書いてるだけでは無駄だと思います。もっと具体的に聞かせてほしい。

★町 長

確かに、今言われたことも大事だと思いますけど、私たちにすれば、やはり将来の入善町の姿というのは、そんなにとんでもないことを言っても、なかなか実現できない。

今言われたことは、将来的には、大変、大事なことだと思います。あくまで、国の方針とかがあるので、従わなくてははいけない。入善町の持っているもの、何かと言いますと、農業は、基幹産業であるので、力を入れていかなくてははいけないと思っている。それと、企業というのは水が大事である。水を生かしたものを、この町に取り入れている。一つは、海洋深層水もありますし、地下水もありますし、そういうものを、全面に出しながら、町の将来図を作りながらやっていく。国の方向性が出ないと、なかなか出来ない。私たちだけで考えていても、町だけの金だけでは、なかなかできないけれども、町は町なりに、こういう総合計画を作りながらやっていることを、ご理解いただきたいと思います。

★住 民

人口を2万8千人をキープするには、どう具体的にするのか。物の考え方は、昭和2年の時代に、もうそれくらいの考え方があったのだから、それを見ると、人口が減った減ったというのは、2万3千を狙うのか、2万7千を狙うのか、2万5千は明治16年に今の入善町にいたというデータがある。入善町は戦後、3万何千人がピークで、2万5千人は、いた。黒部川扇状地研究所の資料を見たら出ている。それと、入善図書館の柏原文庫の書類に載っている。別に、大きいことを聞かせてほしいと言っているんじゃない、現在の問題を、どこで留めるのか、具体的なことを聞きたい。べらぼうな夢を聞いているのではない。

★企画財政課長

人口設定をどうすれば良いのか、というふうに捉えさせていただきました。いわゆる人口推計というのは、10年後の平成32年には、数値的には2万5千人台とでています。しかしながら、現在2万8千人を割りましたが、その2万5千人という推計を、皆さんのご協力を願いながら、2万7千人台に止めたいと、一時的に2万7千人を割るときがあるかもしれないが、頑張って、平成32年には2万7千人を確保したいというのが、現在の基本構想の中での人口目標値となっています。

☆住 民

おのおのの指標に目標がないと、責任は誰も取らないでしょ。おのおのの指標に目標があると、未達成のものをどうするのか、という話になる。だから、説明はいい。政策の柱から、まちづくりの目標も抽象的だ。10年後の姿ですから、おのおのの柱に目標値があって当然なんじゃないですか。説明はいらない。目標が聞きたい。

★企画財政課長

基本計画の中で、それぞれの事業を個別に列挙して、全体の中で目標指標は必ず入っています。今日の資料の中には記載されていないので、基本計画等ができた段階で、基本計画概要版の中で、皆さんにお知らせしたいと考えています。

☆住 民

町長、限界集落をどう思うか。現在 130 の内、限界集落はいくつあるのか。数年前で 35～36 あった。今いくつあるのか。

★町 長

今現在ありません。

☆住 民

準限界集落です。準限界集落は、55 歳以上を対象とする数字です。数年前で 36 あったはずですよ。だったら、今、いくつあるんですか。10 年経ったらどうなるのか。

★町 長

現在はありません。

☆住 民

限界集落の危険性はないと、思っているのか。

★町 長

場所によってはあるのかもしれないが、今はそこまで行っていません。

☆住 民

限界集落は、自助・共助・公助の自助・共助がなくなってしまう。公助だけになってしまう。心配していないのか。

★町 長

もちろん、心配はしています。ですから、どのようなまちづくりをしなくてはいけないのか、皆さんと話をしながらつくっていきたいと思います。

議題Ⅱ 「青木地区設定のテーマ」

(1) 道路の陥没について

☆住 民

三島地区周辺で、下水道工事等で陥没状態があって、1 年に 4 箇所発生したが、その原因は

〔 青木地区 〕

何なのか。入善町の下水道工事はたくさんあるが、全体の工事で他にも発生していないのか教えて欲しい。

★建設下水道課長

三島地区の陥没につきましては、道路の横断暗渠の繋ぎ目から水漏れを起こしたことが原因で陥没したものです。この箇所につきましては、水漏れの防止対策を行っています。

町全体では、平成 21 年度では 27 件の陥没があった。今年 10 月末まで 32 件あります。毎年 30 件程度の陥没があるが、基本的な原因は、水路が老朽化して、漏水による吸出しがあって発生したものです。水道管が破裂して、吸出しによる陥没も発生しています。

今後考えられるのは、基盤整備で道路を作っていた中で、中には木の根っこが埋まっていて、それが 30 年、40 年経ったものが、腐ってきたことが原因で発生したものもあります。

町の管理につきましては、陥没においては、できるだけ早急に対応していますし、今後も対応していきたいと考えています。

(2) 防災について

★住 民

防災訓練を上原と合同でやったが、指定された場所の医薬品、食糧の置かれている場所が明示されているか。例えば、救急訓練などを要請したら、地区の公民館で実施してもらえるか。

★総務課長

今年の防災訓練は、青木地区・上原地区が会場でしたが、住民の皆さんのご協力ありがとうございました。

避難所における医薬品、毛布等の保管状況は、入善町の避難所、主に小学校・公民館等ですが、そこに医薬品・食糧・毛布の備蓄・保管はしていません。毛布等は長期保管が可能なので、上原車庫に一括備蓄しています。食糧・水等については、賞味期限があるものは保管はしていません。各企業と協定を結んでいて、災害時には要請をして、出していただくことになっています。医薬品については、災害があった場合、町全体の救護所はサンウェルに設置予定になっています。一部医薬品は、サンウェルに保管しています。災害時には、必要な物品等を、業者・企業との協定によって、または町が一括購入して、避難所へ配布・配給していくことを考えています。

各地区の自主防災会の皆さんには、備蓄の倉庫があって、毛布、救急セット等は一定数量、備蓄されています。

★消防署長

救急訓練の指導は、救急講習のことだと思うのですが、消防署では、出前講座として、地区会、婦人会、老人会、そして、事業所などで救急救命講習を実施しています。講習内容は、心肺蘇生法や AED（自動体外式除細動機）の使い方、止血の方法や、やけどの手当てなどの応急手当の講習をやっています。その他、火災予防による講話や、住宅用火災警報器、消火器の取り扱い方法などの講習も行っています。青木地区でも、連絡いただければ、講習や訓練内容など相談のうえ、可能な限り要望にお答えしたいと思いますので、お気軽に相談してください。

(3) 高齢者の自動車免許返納について

★住 民

今、全国で高齢者の方々が、自動車免許を返納されている。その方々に、町の補助、タクシー補助券とか、色んなものが出てきているようですが、入善町ではどのように考えているのか。

★健康福祉課長

最近、70代後半の高齢者の運転事故が心配されるので、「免許書を返納したらどうですか？」という運動、警察等の呼びかけが行われています。入善町でも、運転免許を返納しようという方には、のらんマイ・カーの運賃を半額で乗車できる割引を実施しています。申請方法は、入善警察署で証明書をもらって、農水商工課に申し込んでください。県のタクシー協会でも、申請されれば、タクシー利用料金が1割引ほどになる制度もあると聞いています。

(4) スクールバスについて

☆住 民

青木地区でも、遠隔通学地域である、上村、木根地区のスクールバスの要請ですが、この地域は、歩道のあるところとないところがあって、非常に危ない思いをしている生徒がいる。生徒が少なくなってきたので、スクールバスは予算もかかってきますが、危険度から言ってスクールバスになれば、それが解消になるし、不審者対策とかも解消されるのではないかということで、要望しますのでよろしくお願いします。

★教育委員会事務局長

スクールバスの件ですが、義務教育においては、徒歩通学が基本と考えております。徒歩通学により、友達と会話を楽しみ、助け、また、人への思いやりや粘り強い精神、そして、四季の移り変わりを肌で感じるなど、豊かな心が醸成されると共に、自然な形で強じんな体づくりが図れるということから、ご理解いただきたいと思います。不審者対策としては、1年生から3年生は集団下校、4年生から6年生については、複数での下校や保護者や地域の方々の安全見守り隊や防犯パトロール隊、また、教職員によりますパトロールをするなどの対策を講じているところです。ご理解とご協力のほどよろしくお願いします。

○ その他

☆住 民

高齢者免許の返納についてですが、町役場へ来ていただければ提出しますと言われましたが、高齢者は町役場まで行くのが大変なので、返納した時点で警察署から町役場へ連絡するような制度はないのでしょうか。次に、スクールバスについてですが、危険箇所がたくさんあるのを、保護者や教員や地域住民に押し付けて、行政はなにもしないというのは、富山県の特徴です。富山県は進学率が1・2位で、非常に高いです。ところが、教育費に使うのは、45位くらいです。親ばかりに責任を押し付けるのはどうかと思います。

★健康福祉課長

「のらんマイ・カー割引カード」の発行を受けるときは、入善警察署で運転免許証の返納証明書を発行してもらって、役場の農水商工課に申請すると発行を受けられます。申請は、ご家族でもできますので、ご協力のほどよろしくお願いします。

★教育長

小学校には危険マップがあります。車や水に関する危険箇所マップを、子どもたち自身が通学中に肌で感じ、目で確かめ、地域の方から情報を聞いて作成して、被害にあわないようにし

〔 青木地区 〕

ています。これにより、子どもたちの危険予知能力、危険回避能力を高めることができます。今の子どもたちは体験不足なので、保護者の皆さんに外に出て体験をさせるようお願いをしています。

安全策のバスは確かに有効かもしれませんが、教育の中で小さい頃からの十分な体験をさせて、地域の皆さんの協力を得ながら子どもたちの安全確保に努めていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

★住 民

上村地区は遠距離になりますが、登校時は一人で歩いている子しか見ません。そういう時に何かあったらどうするのですか。

もう少しスクールバスのことで議論してもいいのではないですか。

★教育長

全小学校の登校は集団登校していますので、集場所まで一人の場合もあると思います。

★住 民

中学校のスクールバスの区分けをお聞きしたい。

それと、免許を返納した際の「のらんマイ・カーの半額券」ですが、上村地区はのらんマイ・カーの路線がないのでどこで乗ればいいのか。

★企画財政課長

スクールバスについては、国の基準が小学校は4km以上、中学校は6km以上となっていて、それに準じて冬場のスクールバスを運行しています。子どもたちの危険箇所がなくなるよう、歩道整備など努力していきたいと思います。スクールバスに関しては、経済面もあって難しいのですが、来年度から「のらんマイ・カー」を増車する案もあり、こういった対応ができるか検討したいと思います。

★住 民

全国的には、原村のような人口対策を行っているところもあるが、町での人口対策を具体的に教えて欲しい。

★企画財政課長

前総合計画では、何もしなければ26,000人台と予測されてましたが、現在、住基人口で約27,500人となっています。町営住宅、分譲住宅、企業誘致をやった結果、人口推計を1千人ほどの流出を食い止めることができました。基本計画を今年度中に皆さんに示していきますので、ご理解いただきたいと思います。

★住 民

町として新幹線対策をしているのか聞かせて欲しい。

★企画財政課長

平成26年開業予定の新幹線については、新川広域圏で新幹線利用を重視したアクセス道路について取り組んでいます。一方、新幹線より在来線が重要と考えており、県全体で「並行在来線対策協議会」を作り討議中ですが、在来線の存続には赤字がネックとなっています。検討状況については、今後お知らせしたいと思います。

★町議会議長

新幹線問題についてですが、メリットは広域観光、広域事業の拡大などがありますが、デメリットは並行在来線の自治体の負担がどうなるのか、通勤通学の交通網をどう確保していくのかなどが今後の課題です。広域バスとして黒部市民病院へ高齢者が利用できるよう、「のらんマイ・カー」を大きく見直すことや、並行在来線とどのように結びつけるか、小学生、中学生、一般の利用をスクールバスへの混乗など、議会はたえず当局と議論しています。

☆住 民

人づくりも教育にかかっていると思います。子どもは宝ですので、義務教育の間はとても大切な時期で、社会人になるための基礎をつくっています。小学校と中学校の連携で、何か問題点があったら教えて欲しい。また、高校教育は改革が進んでいると思うのですが、入善町の教育について何かありましたら教えて欲しい。

★教育長

近年、共働き世帯が多く、子どもの面倒を見る人がいないため保育所入所希望者が多い状況です。保育士も親のような気持ち・願いを持って接していますが、それにも限界があり、小学校入学時に小１プロブレム（じっとしてられない・物を平気で投げる・突然大きな声を上げるなど）という問題が一部起こっています。その問題解消のため、保育所の子どもたちが小学校に１日体験入学をしたり、保育士が小学校の授業を参観したりなどして、子どもたちが小学校になじめるよう取り組んでいます。また、小中連携も同じよう行っており、教員の人事交流によりそれぞれの良さを共有するようにしています。町には高校は１つしかありませんが、小中高教員の情報交換や子どもたちの体験入学など、交流するようにしています。

☆住 民

土地改良区についてですが、青木地区はここ 20 年間何も事業をしていません。毎年、県単・町単事業に申請しますが、不合格になってしまう。町長も基幹産業は農業と言っておられるので、補助金を上げて農業のやりやすい環境をつくって欲しい。今は回答はいりませんが、来年までよろしくお願いします。

2. 懇談会

飯野地区

開催日：平成22年11月24日(水)

会 場： 農村環境改善センター

議題Ⅰ 「新総合計画について」

★企画調整係長

〈主旨説明〉入善地区参照

★住 民

新総合計画の基本構想の中で、魅力発信・支え合う地域づくりについての提言ですが、入善町の歴史人物の「米澤紋三郎さん祭り」を企画したらどうか。また、若者・有志を中心にした「夢大学」を企画したらどうか。風力発電は採算が合わないそうなので、運動公園等で水力発電をしたらどうか。職人関係を中心にしたまちづくりを考え、紋三郎さんにちなんだ通りを作ったらどうか。

★町 長

新総合計画の中で充分に取り組んでいきたいと思います。

議題Ⅱ 「飯野地区設定のテーマ」

(1) 飯野地区全体の中心的拠点施設となる公民館建設の地元要望の実現について

★住 民

地元の要望を踏まえた公民館建設を実現して欲しい。

★教育委員会事務局長

当改善センターと同じく、他の地区についても改修が必要な施設がいくつもあります。老朽化したコミュニティ施設の今後の在り方や改修などへの対応が、町の重要な課題となっています。

現在、当地区において、コミュニティ施設の建設に向けた検討を進めていただいています。

検討委員会では、新たなコミュニティ施設の規模、機能、場所などについて地区の要望等について取りまとめていただくようお願いしており、今後地区の要望を踏まえながら、建設に向けて協議してまいりたいと思いますので、よろしくお願いします。

(2) 入善町西部地区の土地利用計画に基づいたまちづくりの推進について

★住 民

北陸新幹線の開業、国道8号バイパスの全線開通に合わせた、農業、工業、商業、漁業一体のまちづくりを要望します。

★農水商工課長

入善町西部地区は広大な農地があり、入善の特性を活かした工場が立地していて、農工一体の地区として発展してきました。

西部地区は、国道8号バイパスに接し、平成26年度に開通する北陸新幹線に近いなど交通基

盤が充実していて、さらにまとまった広大な土地があることなどから、産業の創出について非常に魅力的な地域です。

加えて、園家山、海洋深層水活用施設、高瀬湧水の庭など観光資源もあり、発展が期待できると考えています。

町では、西部地区を農業、工業、商業、漁業一体のまちづくりの中心となりうる地区と考えており、産業創出のエリアとして企業の誘致などを積極的に図りたいと考えています。そのときは、地元の皆さんのご協力がないと実現しませんので、町も精一杯やっていきますのでよろしくお願いします。

一方で、農業は町の基幹産業であり、当地区は農業振興地域の中の第1種農地でもあることから、農業、工業等との調和を図っていく必要があると思っています。

(3) 海洋深層水を活用した企業誘致と園家山周辺の環境整備、健康増進施設の設置について

☆住 民

ウーケさんが順調に操業されていますが、それに次ぐような第2の企業誘致をお願いしたい。

また、園家山周辺の新川広域圏で建設した勤労青少年ホームですが、指定管理が今年度で終了かと思います。そこで、海洋深層水を利用した健康増進施設を建設して欲しい。

★農水商工課長

海洋深層水を活用した企業誘致については、平成21年よりウーケが操業を開始し、10月にはフル生産に入ったと聞いています。町では、早期の第2期工場建設を期待しているところです。

さらなる、海洋深層水を活用した企業誘致については、実現のためには地元の協力と熱意が必要ですのでよろしくお願いします。

園家山周辺には、キャンプ場や海洋深層水活用施設、湧水環境など、良い資源に恵まれています。園家山周辺の環境整備などについては、新総合計画の中で位置づけを行いたいと思っています。

(4) 防潮林の早期整備による生活安全対策について

☆住 民

防潮林整備の進捗状況を教えて欲しい。

★建設下水道課長

海岸防災林整備については、現在、古黒部地区、横山・八幡地区の2地区で実施していて、今年度に古黒部地区が終わりますので、この後、早急に神子沢地区から順次整備していきたいと思っています。

造成の部分については、県の事業として行っているのので県との協議後の来年度から始めたいと思っています。22年度で県の認可をもらい、23年度から着工できれば今後継続的に整備が進むと考えています。ただ、整備するには、造成した上で地権者の同意が必要ですので、区長さんを中心に地域をまとめていただきご協力をお願いしたいと思っています。

特に、神子沢・高瀬・五十里については、農地が広がっている大事な部分ですので連たん性を持ちながら整備出来ればと考えています。

〔 飯野地区 〕

☆住 民

防災林の工事について、規模や日程はどれくらいか。

★建設下水道課長

今年度で事業の認可を受けたいと考えています。県では、1期 100 メートルほどのものを繰り返しながら西の方へ向かって工事しており、できるだけ単年度で工事を完成させながら順次整備していきたいと思っています。幅については、国の基準では 30 メートルを確保することになっています。

○その他

☆住 民

養殖事業について、累積赤字が 1 億 4 千万円に上り税金が投入されています。これ以上無駄遣いはやめて欲しい。

★農水商工課長

養殖事業の多額投資についてですが、全国初の事業で、試行錯誤の末ようやく先が見えてきている状況です。また、試算については、ウーケさんの熱交換後の海洋深層水を利用してコストダウンに努めており、採算が取れる目標で漁協さんが頑張っておられます。

☆住 民

全国で風力発電があまり良くないと聞いているが、町の状況はどうか概要をお願いします。

★建設下水道課長

風力発電ですが、全国の約半数で採算が合わないとか実施計画の中で風向き計画がうまくいかないと言う話がありましたが、お陰様で入善町は計画よりも 1 割増になっています。今年の夏は大変暑く風があまり吹かなかったのですが、9 月末現在、計画以上になっています。12 月～3 月が年間の稼ぎ時で、4 ヶ月で約半年分の実績を計画しています。ただ、雷対策として、30 キロ先で鳴り出すと風車が止まるようになっています。

☆住 民

風力発電の 1 基の建設費はどれくらいかかったのか。また、水力発電との比較を教えてください。

★企画財政課長

風力発電については、1 基 3 億 9 千万円かかっていて、半分が補助金で残り半分が起債で対応し、そのうち半分が交付税に算入されており、町の持ち出しは約 1 億円となっています。町が負担した 1 億についての採算は、5～6 年で取れるだろうと計算しています。

水力発電については、2～3 年前に黒東合口用水で水力発電できないか調査した結果、水量の多い時期と少ない時期があり、1000 kW 超の小水力発電では施設費を回収できない結果が出ました。家庭用の 10 kW 以下の 3 kW 程度のものを普及していけばどうかということが、黒部

川扇状地研究所の意見です。しかし、国の規制が緩和されない限り実験もできない状況であり、普及も難しい状況ですが、町も黒部川扇状地研究所と同様、大きな関心を持っていますので、ご理解いただきたいと思います。

☆住 民

昨年も聞きましたが、町道平曽川国道線の曲がっている所を、まっすぐにする方法はないでしょうか。

★建設下水道課長

新幹線が開通するとＪＲから経営が分離されますが、立体で交差するのか、踏切で交差するのか、今後の検討課題です。他地区の入善駅の田中踏切も「開かずの踏切」に近く、町全体のＪＲ線の交差を、今後検討していく必要があると思っています。

2. 懇談会

小摺戸地区

開催日：平成22年11月16日(火)

会 場： 小摺戸公民館

議題Ⅰ 「新総合計画について」

★企画調整係長

〈主旨説明〉入善地区参照

☆住 民

ご意見・質問無し

議題Ⅱ 「小摺戸地区設定のテーマ」

(1) 陸砂利運搬ダンプカーの分散通行について

☆住 民

町道上飯野新小摺戸線は、アサヒ飲料の製品や廃棄物運搬、陸砂利運搬のダンプカー、舟川ダムへの資材運搬車等、大型車やトレーラーの通行量が極めて多い道路である。福島の場合は、発進、加速のエンジン音により、テレビの音声聞き取れない状況にあるので、ダンプカーの通行規制をしていただきたい。

それと、陸砂利採取現場からは、プラントまでの原石と埋め立て土砂がピストン搬出、搬入されるため、片道空車とは限らない。県や町にはこれらの運搬路が届けられており、町では地域の交通実態を把握され、通行車両の分散に努めていただきたい。

★建設下水道課長

陸砂利運搬ダンプカーの分散通行についてですが、町道上飯野新小摺戸線は、過去からの改良によって広い道路になっています。特に大型車同士がスムーズにすれ違いができる、重要な幹線になってきています。通行規制については、基本的には公の道路は、特別な大型特殊車両を除いて、通行の強制的な規制はできないことになっています。

実は、2ヶ月程前に福島の方から、朝夕の通勤時間帯に交通量が非常に多いので、現状を把握して欲しいと要望があり、現状把握したところであります。その上で、農業委員会を通じながら、通行の分散化を業者をお願いしています。

そこで、車両の騒音が特にひどいなど特別の理由で、陸砂利採取の業者に対して、原石を運搬した後は川向こうの道路を通るなどの、通行車両の分散化をお願いしています。

舟川ダムへの資材運搬については、昨年定礎式を行い、計画どおり今年10月22日に本体コンクリート打設工事は終了しました。この後、機械設備工事に入りますが、資材運搬に関して少しは緩和されると思います。

それと、朝夕の通勤・通学時間帯の通行制限については、関係機関と協議をしながら、業者に協力依頼をしていきたいと思っています。

☆住 民

陸砂利運搬についてですが、上飯野新小摺戸線へ通じる一般農道沿い松林で、お昼の休憩でトラックの運転手が弁当のゴミ等を捨てていきます。地区の皆さんが大変困っています。

また、音沢地区で陸砂利をやっていますが、一般道を通らないで国土交通省の管理する堤防沿いを通行していただくよう、お願いしてもらえませんか。

★建設下水道課長

こちらの管理道路ではないので、この件に関して、国土交通省に問い合わせてみます。陸砂利運搬の件ですが、関係機関と協議して対応していきたい。

ゴミについても、現状把握して申し入れしていきたいと思います。

☆住 民

陸砂利の件ですが、県道大家庄上飯野線では現在、消雪施設工事をしていますが、ダンプの交通量が多く、道路が相当傷んでおり、自転車で転ぶ人もいるので修繕して欲しい。

それと、ダンプの分散化については、以前から要望していることですが、本当に分散化しているのか、ただ言っているだけではないのか教えて欲しい。

★建設下水道課長

道路の沈下については、現状は沈下しており非常に危険であります。昨年も修繕されていますが、ダンプが通り、すぐに沈下している状況のようです。県の土木からも、マンホール周辺の沈下の指摘を受けているので、危険のないように対応していきたいと思います。

分散化については、規制がなかなかできないのでお願いするしかありません。現在の許可図を見ると、往復同じルートを通ることになっているのを、他のルートを使いながら、一方通行的にやってほしいと業者さんをお願いしているところです。この件に関しては、町と県から、事あるごとに業者さんに協力を求めていると思いますので、よろしくお願いします。

☆住 民

新幹線の側道が整備されてから、通行量が増加し動線が変わっています。新屋地区でも陸砂利が始まったのですが、結局、福島を通行する状況です。陸砂利が通った後、明らかに路面が亀の子状態になっているので、町のほうからも強力に言ってもらいたい。

★副町長

大変難しい問題ですので、許可者である県の農業委員会・入善署・町住民環境課と全体調整会議が必要だと思っています。少しでも住民の方の迷惑にならないよう対応していきたいと思っています。

(2) 統合保育所完成後の小摺戸保育所跡地の利用について

☆住 民

統合保育所完成後の小摺戸保育所跡地の利用についてですが、先日、区長会が実施したアンケート調査によれば、公民館の駐車場不足を反映して、駐車場拡張の希望が全体の 41 パーセントで、園庭は公園に、建物は老人や児童の憩いの場に改造してほしいという意見が 38 パーセントありました。また公民館施設として改造を望む声も多かったです。その他、いろいろな意見もありました。

現在の公園については、公民館駐車場からは入りにくく、改善が求められます。公園化については、希望が多いものの、管理を地元に押し付けられないようにという声もたくさんありましたので、よろしくお願いします。

★健康福祉課長

小摺戸保育所は昭和 62 年に建築された建物で、築 23 年が経過しています。アンケートの結果に高齢者・子どもの憩いの場に利用したいということですが、未利用となった保育所の使用

事例としては、平成 19 年度から休所している吉原保育所の建物を、吉原地区の高齢者の交流の場とするため、吉原サロンとして 3 月から 12 月まで使用されています。また、その管理運営については、全て吉原地区の高齢者の方にやっています。

保育所跡地の利用については、アンケートの結果、いくつかの要望があるようですが、建物を取り壊して駐車場として活用するのか、建物を残して地元の皆さんの管理運営のもと活用していくのかなど、小摺戸地区の皆さんと協議しながら決定していきたいと思います。

○ その他

★司 会

要望として、新幹線側道と幹線道路に信号機をつけてもらいたい。

★住 民

新総合計画についてですが、コミットメントもついていて、とてもわかりやすかったので、大いに頑張ってもらいたいと思います。

黒部川についてですが、出し平ダムの排砂前までは、結構魚が釣れましたが、その後、釣れなくなった。先ほどの総合計画は内のことばかりで外への攻めがないので、国土交通省、関西電力に攻めの施策で、排砂はしても昔のように魚が釣れるようにしてもらいたい。

★建設下水道課長

現在、年中一定の水を流していただけるよう、国土交通省にお願いしてきています。水環境の問題については、今後継続して検証してほしいことも町長とお願いしていきたいと思います。

★住 民

子育て環境についてですが、現在は核家族化が急速に進んでいます。共稼ぎで帰宅が 5 時以降になるのですが、学校の終業は 3 ～ 4 時でなかなか自宅に帰らせることができません。黒東小学校でかがやき教室がありますが、週に 1 度しかありません。地域も協力しなくてはいけないのですが、安心して子どもを預けられる環境整備をしてほしい。

統合保育所についてですが、駐車場はあるのか、また、学校の登下校時等、車の通行が増えると思いますが、現在、消雪がありませんが、冬季の除雪等、町の対応を教えて欲しい。

★教育長

学童保育についてですが、飯野地区では、学童保育に関する運営委員会を組織し、子どもと関わる指導員の方も確保し、国・県・町が 1 / 2、利用保護者が 1 / 2 の経費を負担して実施しています。また、桃李小学校でも実施しています。黒東小学校では、年 30 回のかがやき教室を実施していますが、町では、全小学校区で学童保育を行いたいと思っています。各地区で運営委員会を立ち上げ、子どもと関わる指導員も確保していただければ、国に申請していきたいと思いますので、よろしくお願いします。

★健康福祉課長

統合保育所の駐車場については、40 数台が駐車できるよう確保しています。保育所前の道路についても、用水までですが、子どもたちの安全を考え歩道のある道路に拡幅工事を行ってい

ます。出入りの通行に関しては、保護者会とも協議して、一定のルールを決めたいと思います
が、直線の道路ですので皆さんもご配慮いただければと思います。また、駐車場の消雪に関し
ても、準備していますのでよろしくお願いします。

★建設下水道課長

冬季の除雪ですが、業者には通学路を優先的に行うようにお願いしています。歩道に関し
ても、通学時に間に合うようお願いします。

☆住 民

土地改良区の維持管理についてですが、小摺戸地区の田畑は基盤整備終了後 40 年が経過し、
最近、地盤の陥没が頻繁に発生しています。個人が負担するには補修料がかかりすぎ、今後こ
のような事例が続けば、農地耕作放棄も予想されます。現状を把握し、継続的な維持管理のた
めにも支援をお願いします。

★建設下水道課長

農地の陥没については、小摺戸地区に限らず顕著に発生するようになりました。木の根が腐
食して陥没している状況で、改修については県の事業をうまく利用できればと思っていますが、
陥没の時期によっては県との協議が整わず時間がかかるため、町では処分費程度の補助をする
ことになりました。

今後心配されることは、用排水路が老朽化しているので、維持管理協議会と土地改良区と協
議をしながら、年次計画を立てて対応していければと思っています。ただ、突発的なことに
関しては、その都度、対応できればと思います。

☆住 民

新総合計画の「いかす」豊かな水を利用した小水力発電を、土地改良区等難しいことがある
と思いますが、特区申請をして、ぜひやっていただきたいと思います。

統合保育所の道路は、広くなったといっても一部であり、小学校の登校、保育所の送迎等で
混乱すると思うので、今後の構想をお聞きしたい。

★企画財政課長

小水力発電の観点からですが、10kW 未満の用水で発電できるものを考えています。農業用
排水だと取り入れ口が黒部川となり国土交通省管轄になるそうで、規制が厳しく、今のところ
道が閉ざされている状況です。しかし、可能かどうか試験的にやってみる必要もあり、結果次
第で、特区申請も考えられます。過去に黒東合口用水の 1,000kW で調査をしたのですが、年間
水量が得られず、もとが取れないという結果でした。家庭用の太陽光発電に代わる 10kW 未満
の小水力発電を、新総合計画の中でも位置づけて実験的にやっていきたいと思いますので、ご
理解のほどよろしくお願いします。

★建設下水道課長

道路に関しては、今のところ現状のままとなっていますが、将来的には、拡幅が必要な道路
と考えていますので、県道の拡幅事業の今後の進捗状況を見ながら考えていきます。平成 16 年
に入善町道路網整備計画が策定してありますが、8 年が経過し、公共施設等の位置状況、人の
動線も変わっているので来年度から見直しをして、重要路線を基本に整備していきたいと考
えています。通学道路に関しても、安全安心の面から検討していきたいと思います。

★住 民

工事に関して、土地改良区と協議をしながらということですが、せっかく事業をしながら住民が使いにくい状況になっているので、設計等の段階で地元の意見を取り入れてほしい。

消防団に加入していますが、勤めている人ばかりで、日中人が少なく、欠員になっている。町の職員にも声をかけて、できれば加入して欲しい。

★建設下水課長

今後、事業を進めるにあたり、地元ともしっかり協議していきたいと思います。

★総務課長

消防団員の推薦があれば、役場職員は兼業になりますので、内部の許可が必要になります。現在、女性消防団員を含め、役場内で 16 名ぐらいいると思いますが、できるだけ地元で協力していきたいと思いますので、ご理解いただければと思います。

★区長会長

統合保育所のエアコンについてですが、配管工事はするが、現段階では取り付けはしないと聞いています。しかし、近くに牛舎があり、他の保育所とは環境が違うので、十分に認識して欲しい。

有害鳥獣の駆除隊は、5 年の経歴がないと出来ないことになっている。鉄砲・空気銃は危険性が伴いますが、わな・オリに関してはさほど問題がなく、今年のようなクマ対応もあるので、地域状況を考えて法改正をして欲しい。

上野地区の高速道路に、牛肥の置き場があります。においが、高速道路を伝って一宿地内に来ているので、現状を把握して町のほうで対策を検討して欲しい。

2. 懇談会

新屋地区

開催日：平成22年11月15日(月)

会 場： 新屋公民館

議題Ⅰ 「新総合計画について」

★企画調整係長

〈主旨説明〉入善地区参照

☆住 民

ご意見・質問無し

議題Ⅱ 「新屋地区設定のテーマ」

（１）保育所統合による新屋保育所の利用計画について

☆住 民

保育所統合による新屋保育所跡の利用についてですが、児童館として利用できないか。以前は、学童保育の拠点として、南部コミュニティセンターを利用していたが、取り壊され機能していません。

この学童保育を、家庭では得られないような子どもたちのふれあいの場にしたいと思っています。昔は、子どもたちが年上のお兄さんお姉さんにしつけを教えてもらった気がします。そのような場になれば良いと願っています。

維持管理の問題についてですが、費用の問題、管理運営の問題がありますが、他地区の事例をあげてお願いします。

☆住 民

役員を中心に、統合後の新屋保育所の利用について話し合いましたが、低学年の子どもがおられる方や仕事の都合で自宅で子どもを見ることができない方が、夏休み・冬休み期間中、入善児童センターまで送迎して利用していたり、朝日の施設を利用している方もおられました。核家族も増え、子どもたちを安心して預けられる児童センターのような、子どもたちが集まれ、地域で子どもたちを見れる場所があれば良いなと思います。利用者は他の地区からみれば少ないかもしれませんが、春休みや夏休みの長期休暇中だけでも開設してもらいたいと思います。

★教育委員会事務局長

学童保育については、現在、町内の４箇所で開催しています。新屋地区においては、三世代家族が多いことから、「子どもかがやき教室」を年間３０回黒東小学校で開催しています。この教室においては、地域の方には大変協力をいただき感謝しております。この間、学童保育のニーズの高まりがあり、全小学校区での実施に向け現在準備を進めています。新屋保育所での実施の提案がありましたが、学校から離れていること、施設の維持管理に経費がかかるということから、黒東小学校での空き教室等での実施を検討しています。

他地区での事例ですが、管理運営は地区の皆さんで学童保育運営委員会を立ち上げていただき、地区の方々が中心となって運営をしていただいています。開設の際には、ご協力をお願いしたいと思っています。

運営費用については、国、県、町からの補助金と利用者の会費で運営していて、負担割合は1／2ずつとなっています。対象児童は、小学校1～3年生で、平日、土曜日、夏休み等の長期休暇を含めまして、年間約260日間開設しております。学童保育においては、諸条件があるので、詳細について要請があれば、説明に伺いますので連絡いただければと思います。

(2) 有害鳥獣対策について

★住 民

有害鳥獣対策についてですが、下山地区は河岸段丘、いわゆる「はば」の下にあり、サルやクマが出没しています。まちづくりの目標である安全・安心のまちづくりということで、どういった対処方法があるのか聞かせて欲しい。また、クマ出没の際の伝達方法と駆除対応、電気柵の設置、果樹の撤去、樹木の枝おろし、下草刈といったことが考えられますが、駆除については、猟友会の高齢化が進んでいると聞いています。現在のところ、人的な被害は聞いていませんが、行政の力を借りて、対策をお願いしたいと思っています。

★農水商工課長

今年は、クマが大変多く出沒しておりまして、すでに、19件の目撃情報と、4頭駆除を行いました。緊急対策として、10月19日からクマ対策本部を立ち上げ、町・警察・消防団・猟友会等と連携をしまして、パトロール強化にあたってきました。出沒情報等が出たら、速やかに、広報等で皆さんに注意を呼びかけて来ております。連絡体制については、クマ対策本部と有害対策協議会との連携を取りまして、基本的には、町、警察、猟友会、地域の皆さんが主体となって、どこに連絡が入っても緊急連絡網において、即座に連携を取っています。その後、広報を行い、駆除隊員・捕獲隊員に緊急出動していただいています。

駆除については、檻等にかかった場合については、放獣が大原則ですが、他に被害を及ぼす可能性があるのも、町、猟銃会では緊急避難的に駆除を行ってきています。檻については、クマ檻を2基、緊急に追加をして、クマ檻4基と他にイノシシ檻等を代用して10基あります。電気柵については、舟見山沿いで、今年緊急的に500メートル延長し約3キロ設置しています。今年、墓ノ木西中地区で3件の個人申請要望があり、町では助成して設置していただいています。樹木の撤去・下草刈については、基本的には、個人・地域ぐるみでお願いしたいと思っています。舟見地区の電気柵についても、設置や草刈りは地元で行っていただいています。

2級河川の舟川については、県と町で進入路を絶つために草刈を実施しています。出来れば、地域ぐるみでお願いしたいと思っています。

猟流会の高齢化についてですが、46名の会員がおられまして、内22名が捕獲隊員として、ほとんどボランティアとして活動しておられます。町では、平成19年から、狩猟免許に係る経費の一部助成しており、今まで13名の若い方に助成をしました。内3名が捕獲隊員となっておられますが、他の方々も今後経験を積んで、捕獲隊員になっていただければと思っています。

「はば」においては、以前からサルの目撃情報が多く見られ、昨年よりサルを追ひ払うモンキ

〔 新屋地区 〕

ードッグ事業を、下山地区の坪野和夫さんのご協力のもとに手がけています。天候に関わらず、毎日パトロールをしていただいております、サルの出没がかなり減ったのではないかと思います。この場をおかりして感謝申し上げます。

(3) 健康福祉体制の充実について

★住 民

健康福祉体制の充実についてですが、これは新屋地区に限らず入善町内全体になると思いますが、健康な体づくりをする設備の充実、介護認定、自殺対策の3点の提言をしたいと思います。

病気予防についてですが、入善町の65歳以上の高齢化率は28.1%です。高齢になっても健康に過ごすための体づくりが大切であり、アスリート向きではなく高齢者向きのトレーニング施設を充実させ、高齢者が利用しやすい施設にしてほしい。また、専門のインストラクターの配置をして、体力に合ったトレーニングメニューを作ったり、個人個人のニーズに合ったプログラムを作るインストラクターの配置をしてほしい。健康で病気になるなければ、最終的に、町としても医療費の削減などになるのではないかと。

介護認定についてですが、高齢者だけの世帯が増え、手続きが非常に煩雑で高齢者にわかりにくいので支援体制を作って欲しい。

自殺についてですが、富山県の自殺率が全国でも高く、なかでも入善町が県内トップになっている。長野県のある村が全国1位だったのが、地域型ボランティアや見守り隊の強化によって、5～6年で劇的に減少したそうです。入善町も入善型モデルを作って予防対策をして欲しい。また、うつ・自殺予防講演会のタイトルは変えて、もう少し配慮したほうが良いと思います。

★健康福祉課長

介護予防の観点から、運動機能・運動施設・運動指導員の配置ということでご提言がありました。運動機能を低下させず維持するための「転倒予防教室」や、保健指導として「カラダすっきり教室」などを開催している。病気予防の運動は、いつでもどこでも出来るものであり、比較的狭い場所でも出来る運動は、サンウェルや地域の公民館等を使って教室を開催し、また、広い場所が必要な場合には、総合体育館等を利用して行っています。

指導員についても、総合体育館ではトレーニング施設を利用して、スポーツクラブ入善の指導員の方、それから、高齢者の活動の支援として「生涯現役めざし隊」にご協力いただいております、町では「生涯現役めざし隊」の養成も行っています。総合体育館では、体力などに合わせた器具の使用についても、指導をしていますので積極的に利用してください。

介護認定については、手続きが煩雑だということですが、介護保険の認定については、申請をしていただいてから決定をするまで、介護保険組合の方が訪問して面接調査を行い、専門の審査会を行うことから認定が下りるまで多少日数がかかるのかと思います。相談の支援については、町の健康福祉課窓口でいつでも行っており介護保険申請の仕方や、サービスの利用を調整するケアマネージャーがいる介護支援事業所の紹介等も行っています。役場以外に、地域包括支援センター・支援事業所においても、相談が出来ますのでお気軽にご相談ください。

自殺予防についてですが、自殺が多いことは憂慮しております。平成21年度から自殺予防対策として「こころ晴ればれプロジェクト」を実施しています。特に、自殺する人は、人に話せず悩

みを抱え込みながら何かサインを出していることが多いので、そのサインを周囲が気づいてあげられる環境づくりが重要と考えています。高齢者の方が眠れないですとか、うつ病になりやすい症状をかかえて悩んでいる方には保健師が訪問し相談にのったりして、予防活動も行っています。また、地区全体で見守り体制をお願い出来ればと思い、研修会・講演会等の開催を行っています。今後も継続していきたいと思いますので、よろしくお願いします。

(4) 防災無線の増設について

★住 民

防災無線の増設についてですが、現在設置されている屋外防災無線では、向島、町新屋、墓ノ木など一部の地域では聞こえない状況です。水害・地震など災害時における地区民への的確な指示伝達が必要かと思いますので、全地域をカバー出来るような防災体制を確立していただきたいと思います。

★総務課長

防災無線が新屋地区一部の地域で聞き取れないということですが、町内でも一部の地域で同様な苦情があります。当初設計では、全地域でカバーできるようになっていますが、風向きや建物等の障害物により、一部の地域で放送が聞き取りにくい場合があることを確認しています。

また、屋内にいと防災無線が聞きにくくなります。個別受信機の普及率は、入善町内全体では33%ですが、新屋地区は83%を超える高い普及率になっています。町では個別受信機が有効と考え、平成20年度から防災ラジオの普及を進めたところです。防災ラジオを含めた普及率は、町全体で6割程度となっていますが、防災無線だけでは、緊急時には、間に合わないのではないかとということで、クマ情報のような緊急時には、防災無線での周知と区長さんを通しての案内、町の広報車を使用した周知を行いました。ケーブルTVも普及しているので、ケーブルTVでの緊急テロップの放送も行っています。さらに、区長さんを中心とした各地区自主防災会への緊急メール通報も考えています。あらゆる手段を使い、緊急情報を伝達できる体制を整備しています。

防災無線は、今後、アナログからデジタル化に変更されますが、町内で電波の伝搬調査をしながら、しっかりと整備していきたいと思います。

(5) 町単事業の補助金について

★住 民

先程、町長さんが総合計画の中で、特に農業に関する維持管理協議会は、厳しい現状の中で施策を考えていきたいとお聞きし、大変心強く思います。町単補助事業を含めまして、現状の写真を持って来たので支援をお願いします。新屋地区には、農地として640ヘクタール、用水は7万9千メートル、排水が4万メートルあり、年間500万円の町単助成では十分な対応ができないことから増額をお願いしたい。

また、田んぼの陥没についてですが、田んぼは個人の財産ではあるが、圃場整備のときの木の根が腐食して陥没してしまいます。県営で行った事業であり、個人には全然罪はないので町からの支援をお願いしたい。

★建設下水道課長

農地、用排水路の維持管理事業については、地元協議会で事業要望を十分調整した上で、年次計画を土地改良区と協議しながら事業を進めています。現場の状況によっては、当初計画よりも事業量が大きくなったり、突発的な問題が出た場合には、その都度、土地改良・県とも協議しながら事業を進めているのが現状です。

今一番問題になっている陥没については、原因が地中に埋まっていた木の根が年月と共に腐敗して陥没する状況が頻繁に起こっています。県にお願いして補助となれば、県が 40%・町が 30%・残り 30%が地元負担となっています。陥没については、予期できない状況なので、タイミングによっては県の補助が受けられないこともあります。そこで、県で対応できない場合は、町でも若干の補助が出来るようになりました。限られた予算で、少しでも皆さんに応えるようにしていきたいと思います。

☆住 民

平成 16 年からの県道道路工事についてですが、最初は説明がありましたが、6、7 年経つと事業者や町からの説明もなく、土地改良区、地元にも説明もなく勝手に工事が進んでいるので、連携を取って進めるようにして欲しい。

★副町長

今後、そのようなことがないよう新川土木センターあるいは、新川農林振興センターと連携を取るように、厳重に申し入れたいと思います。

2. 懇談会

桐山地区

開催日：平成22年12月 2日(木)

会 場： 桐 山 公 民 館

議題Ⅰ 「新総合計画について」

★企画調整係長

〈主旨説明〉入善地区参照

★住 民

ご意見・質問無し

議題Ⅱ 「梶山地区設定のテーマ」

(1) 少子化改善策として、子育て環境の改善

★住 民

桃李学童保育は、指導者不足や希望者の割には保育場所が狭く、定員 30 名で入れない子もいます。学童保育に行けない子の放課後の生活を把握しているのか。設備が不十分と感じられるが、今後の改善展望をお聞きしたい。

新総合計画にもありましたが、若者の定住策をどう考えているか。産み育てられる生活環境がなければ、若い人は町から出て行きます。生活の基盤は働く環境であり、収入があつて初めて生活できるので、就労環境の改善を聞かせて欲しい。

梶山地区は現在人口が増えていますが、いつまでも続くものではありません。他市町村から若者を呼び込む施策・具体策があれば聞かせて欲しい。

★教育委員会事務局長

学童保育につきましては、地元で運営委員会を立ち上げていただき、運営・指導を行っていただいています。

指導者につきましては、「地域の子どもは地域で育てる」の観点から、運営委員会で確保していただいていますので、ご尽力ご協力を賜りたいと思います。

町としましては、様々な機会を捉えて呼びかけてまいりたいと考えています。

学童保育の施設については、空き教室を利用することとしています。桃李小学校には空き教室がありませんでした。地元の強い要望から、体育館棟にある礼法室を学童保育の場所に転用しました。

これ以上のスペースを確保するとなると特別教室が不足し、学習に支障を来たしてしまうことから、現在の場所で創意工夫とスペースの効率的な利用による運営を図っていただきたいと思います。

町内では、まだ 3 校区で学童保育を実施していませんが、学童保育への要望が高まっていることから、まずは、全校区での学童保育の実施を目指していきたいと考えていますので、ご理解、ご協力よろしくお願いします。

★企画財政課長

若者の定住策についてですが、まず働く環境、次に子育て支援等の行政支援が厚いというのは魅力になると思います。若者に入善町の魅力をどうやって上げていくかが使命だと考えています。

働く環境については、町長を先頭に、東京・大阪・名古屋などの「入善町に来て欲しい」という企業回りを、東京に行くたびに年間 10 回以上は町長にしてもらっています。その成果として、「サンリッツ」「ウーケ」の立地につながっていますが、今後更なる、企業誘致を行うことと、子育て支援の拡充ができないかも考えています。

現在、桃李小学校の学童保育の施設が拡張できないか検討中です。

住宅支援として、町内の方が住宅取得された場合 20 万円、町外からの移転の場合は 50 万円の補助をしています。

三世代同居であれば、在宅介護・学童保育もそんなにクローズアップされなくなり、理想なのかもしれません。行政が三世代同居を勧めることは難しいですが、同じ敷地内で家を建てた場合の支援も考えています。若者の定住は少子化対策につながると考えていますので、ご提言をいただければと思います。

★住 民

学童保育についてですが、抽選にもれた子がどうなったのか把握しているかという質問はどうなのでしょう。私の家も抽選にはずれたその一人で、親たちが働いているので、子育て支援と思い仕事を辞めました。施設が狭いのは、創意工夫の問題ではなく施設の問題で、私たちが希望するのは希望者が入れるように何とかして欲しい。子育てが大事なら機敏な対応を考えて欲しい。桃李小学校はできたばかりで空き教室があるわけがありません。もっと検討した前向きな回答をもらいたかったです。

★副町長

今日、学校・保育所を見て学童保育のニーズがあると確認してきました。学童保育については、更衣室・管理室を利用できないか検討中です。実態把握に努めて対応を早期検討していきたいと思っています。

★住 民

学童保育は授業が終わってからのことであり、音楽教室など特別教室でできないのでしょうか。

★教育長

平成 4～5 年ぐらいから、共働き世代が増え児童数も減って、空き教室を利用した学童保育が始まりました。現在、桃李小学校では礼法室を学童保育室に転用していますが、特別教室においては、夜間開放などに影響のあることから、今、更衣室・管理室が使えないか検討しているところです。

お願いになりますが、子供たちと関わってくださる指導員の方を地元の方で対応していただきたいと思っています。開始時は 20 人超おられたのが、現在 5 人しかおられません。高齢化もしています。時間給も 100 円値上げし 800 円としておりますので、子どもと関わっていただくことができる方は、ぜひお願いしたいと思っています。

(2) 高齢化と社会福祉

★住 民

福祉施設に入所を希望しても順番待ちとなっており、また、福祉施設に入所できても期間が短く 3 ヶ月もすると他の施設に移動しなければならないと聞いています。高齢化が進んでいるにもかかわらず、入所希望してもなかなか入れない状況で、福祉施設が不足して施策が遅れているように思います。町の方策と現施設の実態を聞かせて欲しい。

〔 梶山地区 〕

★健康福祉課長

老後を施設で暮らしたいという要望が増えているのは事実です。介護保険料でまかなっている施設は、特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型病院の3施設があり、入所希望者全員の入所は難しい状況です。ただ、富山県の整備率は高く、全国第2位となっており、その県の中でも東部は高くなっています。施設の整備は、整備率の低いところが優先になっています。

介護保険の要介護度3から5の重い方が入所される特別養護老人ホームは「舟見寿楽園」と「おあしす新川」で180床、老人保健施設「こぶしの庭」は認知症の方を含めて150床、介護療養型病院が1市2町で3箇所あります。

その中の老人保健施設は、3ヶ月程度で自宅へ戻れるよう機能訓練に重点をおかれた施設なので、短期入所となります。

施設の整備については、介護保険組合でどういう施設がどれだけ必要かなどシュミレーションをしながら整備しています。入善町では昨年、認知症に対応したグループホームが整備されています。施設を増やせば、当然保険料の負担も増やさなければいけませんので、3年を期間とした整備事業計画を策定し順次整備をしていますので、町としても、それを通して議論していきたいと思っています。

☆住 民

介護保険料が5,100円に上がったと報道されているが、入善町の介護保険料はどうなるのか教えて欲しい。

★健康福祉課長

現在、介護サービス量が増えていることから、国の試算では約1,000円上がって約5,100円となっている。新川介護保険組合は現在3,900円で県内で一番安くなっています。まだ、シュミレーションをしていないので、いくら上がるかわかりませんのでご了解いただければと思います。

☆住 民

町としての補助はないのですか。

★健康福祉課長

介護保険料でまかなっているサービス料については、50%を公費負担しており、25%を国、残り25%を県と町が負担しています。施設整備については、施設に合った整備補助をしていますのでご了解いただければと思います。

☆住 民

一人暮らしの安否について、現在は社会福祉協議会・民生委員・地区役員・近所等が支えています。毎日は無理なので、毎日確認できる手立てはないのでしょうか。町の考えを教えてください。

★健康福祉課長

一人暮らしの方は、町内に800人から900人おられ、高齢者夫婦世帯も同じくらいおられます。社会福祉協議会が中心となった3～4人のグループを作って、安否確認、ゴミ出し等のお手伝いをしていただけないかお願いしています。また、月500円程度かかりますが、24時間対応の緊急通報を設置することもできますので、ご利用いただければと思います。

☆住 民

東京都のある区では、牛乳・弁当配達員の方に補助金を出して、毎日安否確認をしていると報道していました。入善町もそういった対策が必要なのではないでしょうか。

★健康福祉課長

新聞配達員の方に、2～3日新聞が取り込まれていない場合、役場に連絡してもらうようご協力をお願いしていますので、ご理解いただければと思います。

○ その他

☆住 民

たき火をしていたら通報があったらしく、消防車が来て大変迷惑をかけてしまった。たき火はどの程度までいいのでしょうか。

★企画財政課長

屋外での野火は、法律で禁止されています。砺波の方にカイニョを守るためどうしているのかたずねたことがあるが、地域で協定を結んで燃やしているそうです。地域協定を作るのも一つの方法なのかもしれませんが、本当に可能かどうか検討させて下さい。現在、許されているのは左義長や塞の神のような宗教行事が認められていますが、今のところ、条例を破ることは出来ませんのでご理解いただきたいと思います。場合によっては、罰金ということもあるのでご注意ください。

☆住 民

通報があったら罰金で、通報がなかったら何もないのは、不公平でおかしいと思います。チラシ配布だけでなく、広報車などで1日5・6回は回って指導すべきだと思います。

☆住 民

関連ですが、農家には、クンタンが良いと指導されてきました。畑には草木炭が良いと聞いています。草を燃やす目的は、クンタンを生産することであり、それでも駄目なののでしょうか。

★総務課長

野焼きについて、防災無線による広報活動をしています。住民からの通報からだけではなく、我々もあまりひどいものには、すぐ現場に行って指導をしています。

2. 懇談会

横山地区

開催日：平成22年11月26日(金)

会 場：横山漁村センター

議題Ⅰ 「新総合計画について」

★企画調整係長

〈主旨説明〉入善地区参照

★住 民

町では地産地消を進めていますが、農家では野菜や果物を作っても売る場所や加工場がないので、「道の駅」のようなＢ級品が売れる売り場施設等を検討してもらえないでしょうか。

★企画財政課長

現在、農産物の委託販売所として、ＪＡ本所横の販売所と農業公社で行っている「まちなか屋」があります。「まちなか屋」は高齢者の買い物対策として行った事業であるが、そういう所があるということもご理解いただきたい。加工については、女性グループを対象にＪＡ上原支店の旧店舗を改造して加工施設を造っておられます。

「道の駅」については、通年で生産物・加工物の確保ができるかという問題があります。作るという１次産業、加工という２次産業、売るという３次産業を足した６次産業化による新ブランドの開発を新総合計画の中に盛り込んで、将来が見えれば「道の駅」も考えていきたいと思しますので、ご理解をよろしくお願いします。

★住 民

基本構想・基本理念は、骨組みだけで計画が終わらないようにして欲しい。

例えば、商工会青年部で宣伝している「入善ブラウンラーメン」の行政の位置付けを聞かせて欲しい。

★企画財政課長

商工会青年部が開発した「入善ブラウンラーメン」ですが、最近では北陸ラーメン博の参加や近隣での各種イベントに参加され、積極的にＰＲされています。町としては、開発支援やイベント参加補助をしています。この「入善ブラウンラーメン」は通年販売できる特産品であり、若い方々が一生懸命やっておられることに敬意を表すると共に、今後も十分に支援して行きたいと考えていますのでよろしくお願いします。

議題Ⅱ 「横山地区設定のテーマ」

（１）特別養護老人ホームの拡充について

★住 民

平成 23 年度からの入善町第 6 次総合計画策定に伴う住民意識調査によると、入善町の問題点の上位 3 項目は高齢化社会に関するものでした。9 月議会で議決された基本構想では、施策Ⅰの「力を入れて取組む項目」に高齢者福祉が高く格付けされ、介護者の高齢化対応が重要であると言明されています。危機的な高齢化社会を迎え、生活形態が大きく変化し、かつて家族が行っていた介護は、もはや家族に期待できない時代となっています。

このようなことから、特別養護老人ホームの拡充が、多くの町民が待望しておられると思い

ます。しかし、入善町にある２つ施設の収容能力が 180 床しかなく、待機者がその数を上回ると聞いています。

特別養護老人ホームを拡充するには、県の高齢者保健福祉計画や介護保険事業支援計画が指針となるものと思いますが、今期の当該計画では、新川圏だけがサービス量の予測値が減となっていて増床計画がなく、不安を感じています。

一方、9月29日の北日本新聞の報道では、県議会の厚生環境委員会で、県全体で待機者が大変多くおられることを踏まえ、今期の介護保険事業支援計画で大幅に上積みしたいとのことでした。

また、37%ルールも見直しが見られるとのことですし、次期介護保険事業支援計画には、増床の必要性を強く訴えていただき、拡充に対する入善町の強い意気込みを示していただきたいと思います。

また、整備に当たっては、既存の社会福祉法人を活用した地域密着型介護老人福祉施設、いわゆるサテライト型施設の整備をするというのも一つの方策だと思います。

そして、この施設を、是非、横山地区の中心部で整備をしていただきたいと思います。横山地区では、漁村センターの建替えや、保育所の統廃合も避けられず、ゲートボール場も放置となっており、用地については何の問題もなく、また、自然環境など立地条件も最適だと思います。

★健康福祉課長

特別養護老人ホームの施設には、介護保険組合との関係は切り離せないところがあります。

介護施設をつくる場合は、介護保険計画、県の介護事業の支援行動計画があり、保険者にも3年間の事業計画をつくっていますが、施設の整備については、現計画では新たな増床は計画されていません。

平成24年から26年までの3カ年の次期介護保険事業計画の策定にあたり、高齢者の実態調査を来年度に行う予定で、その調査結果をふまえ次期介護保険事業計画が策定されます。

施設整備については、計画策定のなかで当然議論されることになるので、要望してまいりたいと思います。

地域密着型サービス施設については、整備を進めており、入善エリアでは昨年度、認知症グループホームが開所しています。また、来年度には認知症に対応したデイサービスの整備が計画されています。施設の整備についても、事業計画の中に特別養護老人ホームの増床等を含めて議論していきたいと思いますので、よろしくお願いします。

★住 民

新川圏だけ今期の介護支援サービス量が減になったのか教えて欲しい。

★健康福祉課長

全国的に富山県の整備率が高く、特に東部が高いので、整備率の低い西部地区に多くなっているということでご理解いただきたいと思います。

(2) 横山地区から国道8号線へのアクセス道路について

★住 民

横山地区住民の国道8号線へのアクセス道路について、要望します。

永年の要望であった桃李小学校通学路交差点ですが、いよいよ地権者移転が開始され、工事が本格的に開始されていくものと思われますが、交差点部及びJR北陸線アンダー歩道の計画

〔 横山地区 〕

の今後の工程などをお聞かせください。

この道路は、横山地区住民にとっては、通学路としてだけでなく、8号線や高速道路I Cへの重要なアクセス道路としての機能を担っています。

地区住民にとっては、8号線へのアクセス道路の新線を望む声もありますが、J R線の横断等、現実的ではないように思われます。県道交差点改良を機に、横山消防屯所から8号線までの区間を主要アクセス道路として、消雪や歩道もある拡幅された総合的道路に整備することで、横山地区の主要道路として役割を担えるものと思いますので整備を要望します。

★建設下水道課長

地区の幹線道路として位置づけることが大事で、現在の入善町道路基本計画では、中期的な整備として位置づけてきました。

県道小杉栢山新線の交差点処理がなかなか県の方で進めてもらえなかったのが、現在、改良され、これを機に整備をしていく必要があると思っています。県道小杉栢山新線の交差点については、県も昨年度より道路総合交付金を活用して用地補償等を行っていて、用地補償が済み次第交差点の改良工事に着手し、その工事完成後に道路の拡幅と合わせJ Rアンダー部に取りかかり、歩道は少し離れますが整備されると聞いています。

県道交差点から海側の町道横山栢山新線につきましては、地元地権者の同意が必要であることからご協力をお願いします。

インターチェンジへのアクセス道路とも言われていますので、できるだけ小杉のほうも合わせ、一体的な道路改良を進めていきたいと思っています。

(3) サンビレッジグラウンドの照明設備について

★住 民

サンビレッジグラウンドの照明設備について提言させていただきます。

現グラウンドの使用は、夜間は使用できず日中のみとなっています。毎年、地区体育大会の実施、スポーツ少年団の野球練習など、横山地区唯一の施設であり、交流の場であります。

しかしながら、昨今、余暇利用、体力増進などの一環として、帰宅後、6時から9時まで、また、学童の夜間練習、地域住民の交流を図るジョギング場所として高齢者の健康増進の場、夜間緊急時の避難場所としても活用したく、是非とも夜間照明設備の設置をお願いしたいと思います。

★教育委員会事務局長

各地域でのスポーツ活動や交流の場として、グラウンドの夜間利用については、各小学校下の小中学校のグラウンドを利用させていただいており、当横山地区では、桃李小学校のグラウンドの夜間照明を利用させていただいています。

既存施設の効率的な活用を図っていただきたいと思います。

照明設備の設置については、今後、コミュニティ施設の建設も含めて協議していきたいと思っています。

★住 民

今後検討ということだが、できるのかどうなのか方向性について、もう少しはっきりした答弁をしてもらえないか。

★教育委員会事務局長

すっきりしない答弁で申し訳ありません。現在4地区の建替えを予定していて、各地区で検討委員会・建設委員会を立ち上げて協議していただいています。その中で、夜間照明についても協議していただければと思います。

○ その他

☆住 民

防災林についてですが、現在、八幡地区の工事が順調に進んでいます。これは、平成19年6月に要望書として八幡・東五十里・横山地内の防災林造成事業として誓約書・地権者の同意書・現状写真・その他関係書類を添付して採択され工事に至っています。住民も東五十里・横山と順次着工するものと思っていますが、10月の議会だよりにより八幡・神子沢地区を対象に考え、今後、五十里・高瀬地区を取り組みたいとなっています。東五十里・横山地区が全く抜けていて、非常に話が食い違っているように思うので詳細を聞かせて欲しい。

★建設下水道課長

横山地区の海岸防災林の整備については、国の補助事業で県が造成工事を進めており、平成4年度までに春日地区が終わり、今年度に古黒部地区が終わります。途中、県の事業がなかなか進捗せず、八幡地区は来年度が最終の予定です。横山地区が抜けているのではなく、町全域をグリーンベルト化することが基本的な考え方がありますが、県のほうでは国の補助事業でできる地区から事業を進めており、横山は規模的な面で国の採択を得にくいのではないかという話があり、国の採択で出来ない部分を県の事業で出来ないか、再度地区の皆さんと話し合った上で県と協議して行きたいと思っています。

☆住 民

いずれにしても、八幡・東五十里・横山と順次やっていただきたい。詳細は地区と話し合うということでもいいですか。

★建設下水道課長

基本的には町全体をグリーンベルト化する計画ですので、県で事業をやっていただき、町は地権者の協力を得て防災林として位置付けたいと思っていますが、県もこういう情勢であり、今後協議して進めていきたいと思っています。

☆住 民

古黒部地区通学路の整備についてですが、今年度の進捗状況を教えて欲しい。

★建設下水道課長

古黒部地区通学路については、藤原長島線と古黒部藤原線を位置づけていますが、藤原長島線は、平成14年度から整備を開始し、地権者の同意を得ながら順次整備促進に努めています。今年度は田ノ又地内の改良工事をして順次進めて行きます。古黒部藤原線は平成11年度から工事を開始していましたが、平成16年度から古黒部圃場整備のため、現在、未整備となっています。大事な通学路なので順次進めていきたいのですが、道路の拡幅・改良は地権者の同意次第という面もありますので、地元の協力をお願いしたいと思っています。

〔 横山地区 〕

☆住 民

現在、藤原長島線改良工事は、交差点付近の補償をしての改良工事ができなかったのか。一日も早く古黒部藤原線の整備をお願いしたい。

★建設下水道課長

今年度、藤原長島線については、地権者の協力を得てできるだけクランクにならないようにゆるやかなカーブとしました。小杉櫛山新線までの取り付けをして、土地改良事業も今年度で終了のようなので、古黒部の改良工事に入っていきたいと思います。

☆住 民

漁村センターについて、なるべく早く計画して欲しい。

★企画財政課長

前期計画期間の5年以内に4施設を着工・着手する予定です。財源を早く見つけて頑張りますので、よろしくお願いします。

☆住 民

古黒部地区の通学路の拡張工事が終わったが、街灯がなく真っ暗でとても危険な状態です。道路整備が終わらなくても仮の街灯でも設置できないか。

★総務課長

街灯については、昨年度も道路拡幅改良工事の要望に合わせて2箇所伺っています。基本的に防犯灯は地元の設置となり、町が助成をしています。基本的には道路改良と合わせてという話でしたが、改良工事に時間がかかるということなので、地元と協議をしながら検討したいと思います。

☆住 民

防犯灯については、桃李小学校統合の際の安全確保のための通学路で、町との約束事項なので町が主導でやって欲しい。

★総務課長

防犯灯の設置については決め事がありますので、区長会・地区の同意も含めてお願いしたいと思います。

☆住 民

子育て支援「なかよし広場」についてですが、保育所によって開催回数が違うので回数を増やして欲しい。また、増やせる環境づくりをして欲しい。

★健康福祉課長

「なかよし広場」については、未入所児を対象にした育児相談を、月2回を原則にして開催しています。要望があれば実態調査をして検討していきたいと思います。

☆住 民

一番のネックは、臨時職員が多い中でいろいろな事業がある。人的なことだと思うので、回数を増やせるように努力してください。お願いします。

2. 懇談会

舟見地区

開催日：平成22年11月19日(金)

会 場： 舟見コミュニティ公民館

議題Ⅰ 「新総合計画について」

★企画調整係長

〈主旨説明〉入善地区参照

☆住 民

基本構想の「つくる」のまちづくり目標を、今後、高齢化していく中で協力に進めていって欲しい。

流雪溝のふたが、高齢者では重くて負担になっている。高齢者の立場を考え、重量物を軽量化するような高齢化に対応する施策を推進していって欲しい。

★企画財政課長

流雪溝のふたについては、最近では車が通り重量物に頼らざるを得ない面もありますが、町として改善策を考えていきたいと思っています。

☆住 民

「つくる」の障がい者が安心して暮らすことができる環境づくりを推進しますということですが、具体的に説明してください。

★健康福祉課長

高齢者にとってどんな形が暮らしやすいのか、障がい者にとってどんなサービスが必要なのか、どんな提供をしていかななくてはいけないのか、最近、法律・制度の改正などにより、わかりにくい点もあります。本当に必要なサービスとして、現在、特に行っていることは、生活支援・介助といった面を含めながら、今後ともサービスの充実に努めていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

☆住 民

人口減少についてですが、10年後、20年後、30年後の人口減少について把握しているのか。各地区別での状況把握はどうか。このまま対策をしなければ30年後、悲惨なものにならないか。対策が見えないので見えるようにしてほしい。

★企画財政課長

何もしなければ30年後、人口が半分になる推計も出ています。今年の国勢調査の確定値はまだですが、2万7千人あまりの見込みで、10年後何もしなければ2万5千人あまりで、約2千人減少する推計が出ています。日本の現状では人口を増やすことは非常に難しいですが、企業誘致をして若者の定着を図り、子育て支援をして若者が入善町に来て、住んで、子供たちを育てやすい環境づくりをしていくということで、厳しい状況ですが、10年後の目標人口を2万7千人に設定して総合計画をつくっています。

ちなみに、平成2年当時の人口推計では、10年後の平成12年は2万7千人となっていました。実際には28,000人で何とか持ちこたえました。企業誘致・住宅政策の結果だと思っています。皆さんの事業提案がありましたら、よろしくお願いします。

議題Ⅱ 「舟見地区設定のテーマ」

(1) 冬季雪対策について

☆住 民

①高齢者世帯の屋根雪下ろしについて

屋根雪下ろしはほとんどが近所のボランティアでやっています。作業が一斉に集中し業者選定など手配もままならず、実質的には機能していない。さらなる高齢化への充実した対策をお願いしたい。

②道路の雪捨てについて

ザイ水について、今の時期、川には水がないが、今後、舟川ダムから安定した水を舟見で取水できるよう、県に働きかけをお願いしたい。

③除雪機について

古くて使いにくいので、より使いやすい除雪機の更新をお願いしたい。

★健康福祉課長

65 歳以上対象の高齢者世帯の屋根の雪下ろしについては、限度額 11,700 円の助成を 2 回まで行っています。昨年度の実績は屋根の雪下ろしが 6 世帯 8 回、そのうち舟見地区の要援護世帯からは、3 世帯 4 回の申請がありました。短期集中的な降雪だったので、除雪対策・援護支援も集中して、うまくいかなかった部分もありますが、町は「公助」の観点から、道路や公共施設など公的な部分の除排雪をまずは行っています。個人の住宅につきましては、家族や親戚、隣近所などの支え合いによる除雪をお願いしたいと考えていますが、災害のような大雪となった場合などは柔軟な対応をしていきたいと思いますので、ご協力、ご理解のほどよろしくお願いします。

★建設下水道課長

道路の雪捨てについてですが、ザイ水の理由のひとつに、冬に水路の水が少ないため、雪を押し流す水量が少ないためと考えられます。冬場の水路への雪捨てについては、地区全体で計画的に行っていただきたいと思いますので、ご理解、ご協力をお願いします。平成 24 年秋に舟川ダムが完成すれば、冬の安定水量が見込まれると思いますが、水利権のこともあり、ダムを整備している県・関係者と協議しながら進めていきたいと思います。県の要望に対しては、町としても働きかけを支援していきたいと思います。

除雪機の要望についてですが、町からスノーローダー 1 台と小型ロータリー 1 台を貸し出ししています。昭和 60 年頃、地域ぐるみ除排雪事業という県補助事業で購入した除雪機械は、かなり老朽化が進んでいて、他地区も含め計画的に除雪機械の更新を進めていく予定です。舟見地区においても更新計画の中で除雪機械の種類も含めて、区長会と相談しながら検討していきたいと思います。

☆住 民

雪下ろしの件ですが、補助金が出るのは皆さん喜んでいるのですが、人手がいないので困っています。役場の方で業者さんに声をかけていただけないでしょうか。

★健康福祉課長

業者の皆さんにも声をかけていますが、昨年のようなドカ雪ですと手が足りず、また、職人さんも少なくなってきたおられます。町としても業者さんが確保出来るよう努力したいと思います。

☆住 民

現在の小型ロータリーでは使い物にならない。手押しにしては機械が大きく扱いにくい。更新するならショベルの方がよい。

★建設下水道課長

あの除雪機は移動に時間がかかりますが、雪を飛ばしながらの除雪機なので良いところを活用していただきたいと思います。更新の際は、ショベルカーを検討しています。

(2) 交通移動手段について

☆住 民

・高齢者の問題

J Aのスーパーの廃止、自動車免許の返納等により買い物が出来ない状況で、非常に不便な地域になっています。

・中学生の問題

スクールバスのサービスが必要最低限必要ですが、土・日のサービス等が不十分で活動が限られるとPTAの方から出ています。

・解決策として

舟見・野中地区の必要地域（コスモ 21・中学校・入善駅）へのバス路線の見直し・増便をお願いします。充実すれば、スクールバスでなくても有料化になっても良いので、早急には難しいと思いますが3～5年程度の中期計画で具体的な検討をお願いします。

★健康福祉課長

高齢者の方の交通移動手段についてですが、運転免許証を返納された65歳以上の方には半額の100円で乗車できる「のらんまいカー割引カード」を発行していますので、ぜひご利用ください。申請のやり方は、入善警察署で運転免許証の返納証明書を発行してもらい、役場の農水商工課で発行しています。回数券についても同様です。また、某タクシー協会では、その返納証明書を見せると1割引乗車できるようになっています。

介護保険で家事援助のサービスを受けられる方は、ホームヘルパーに日常生活用品の買い物代行を依頼することができます。このサービスに関しては担当のケアマネージャーに相談し、ホームヘルパーの派遣事業所と相談してもらいご利用をお願いします。

★企画財政課長

のらんまいカー、公共バスについてですが、新総合計画のアンケートの中でも、公共バスのニーズが高く、議会からも同様の指摘を受けています。役場職員でワーキングチームを設置し、公共バスのあり方について検討中です。現実的には車両1台でニーズに応えるのは難しいと考えていて、平成23年度から試行的にバスを運行してのニーズ把握をしていく予定です。町営バスを利用したスクールバスの代用や増便、高齢化社会で「買い物難民」「ひきこもり」等の対応も考え、検討し、平成24年度に本格実施を目指していますので、今しばらくお時間をいただきたいと思います。

また、さきほど区長会長のあいさつの中で質問がありました、舟見保育所跡地の住宅用地の公募の状況ですが、住宅団地の要望もあり、町外者対象に実施しましたが、問い合わせは1～2件ありましたが、応募者はゼロでした。人口増対策も含め、新公募条件を考えていきたいと思っています。

(3) 観光のまちづくり

★住 民

・舟見地区の過疎化について

人が集い、にぎやかにすることによってどうにか過疎化を食い止めるため、人の集まる観光地について考えたい。具体的には、舟川ダム、負釣山、舟見城展望地、バーデン明日を特徴とした人が集まる総合ハイキング公園の実現が出来ないか。そのためのハイキング道路、舟見城址への道路、負釣駐車場、舟川ダムのトイレ整備など、中期・長期計画で検討をお願いしたい。

★農水商工課長

観光についてですが、人口減少を食い止め、人口増を図る取り組みには町も力を入れていますが、交流人口を増やしていく取り組みも検討しています。舟見地区には負釣山、舟見山、温泉など観光資源が多く、また、平成 24 年度には舟川ダムが完成予定であり、自然豊かで歴史的なものが残っています。町としてもこの資源を活用し、町を代表する観光拠点と位置づけるようにしたいと考えています。現在、新総合計画を策定していて、舟見山周辺整備については、計画期間中の早い時期に位置づけをし、整備していきたいと考えていますので、よろしくお願いします。

★住 民

森林組合ですが、林道奥中野線の早期舗装をお願いしたい。毎年、計画的に舗装もしていただいているが、横谷線まではかなりの距離があります。また、負釣山の駐車場が足りないくらい、人も訪れるようになりました。先日、担当者から、急カーブと急勾配の工事は 22 年度で終了と聞いているが、まだ整備してもらいたい箇所があるので、林道ではなく観光道路としての観光目線で、ぜひ継続して欲しい。

★建設下水道課長

22 年度で終わったわけではなく、1 期工事が終わったと考えて欲しい。引き続き、県に要望しながら進めていきたいと思っています。

○その他

★住 民

新総合計画の基本構想ということで、大変すばらしいものができているように思いますが、実施計画になったときに地域の要望が見えるようにしていただきたい。舟見地区が町内で一番雪が多く、少子高齢化が進んでいる地区で、雪と空き家があります。住宅の前の歩道は皆さん除雪するが空き家の前は除雪していないため雪があり、子どもたちは車道に出る。車道には消雪装置の水が大量に流れているので水がはね、子どもたちの登校に支障をきたしています。小学校前の歩道除雪は大変きれいになっているが、子どもたちがあまり通らないので、県道空き家の歩道と西裏線の歩道の除雪対策を優先して、新総合計画の実施計画に取り入れて欲しい。

★建設下水道課長

県道歩道の除雪についてですが、県道空き家前の歩道除雪は、子どもたちの危険性を考え、県に協議し働きかけていきたいと思っています。

西裏線の歩道除雪については、今年、除雪計画には取り入れています。子どもたちの通学時間帯前には除雪が終わるよう業者さんに申し入れ、安全・安心して通学できるようにしたいと考えています。

2. 懇談会

野中地区

開催日：平成22年11月 9日(火)

会 場： 農村婦人の家

議題Ⅰ 「新総合計画について」

★企画調整係長

〈主旨説明〉入善地区参照

★住 民

入善町の主要課題に、少子化と人口減少の対応、もう一つが、安心して暮らせる安全な地域の実現について、具体的に聞きたい。

★企画財政課長

基本構想だけでは、町の10年後の姿が、なかなか見えにくいと理解しています。他地区でも、同様の意見が多くありました。基本計画、実施計画をこの場でお見せできれば、こういう事業をやっていくんだという事がわかっていただけるのだと思います。今、基本計画、実施計画を作成中です。少子化につきましては、若い人たちが働ける場がまだまだ必要ではないかと言うことで、より一層の企業誘致を図っていこうということが、いくつかある少子化対策の一つです。また、安心して暮らせる安全な地域の実現ですが、安全・安心というのは、それぞれ大きなテーマであるが、例えば、道路の整備で町道の歩道を増やしていくなど、実施計画に盛り込んでいきたい。それと、基本計画では、今後の事業としていくつかの指標を設けようと考えています。例えば、10年間で歩道整備を何キロやるとか、指標を達成するために、10年間の実施計画を作っていきたいと考えています。しかし、地方を取り巻く財政環境は非常に厳しいものでありますので、限られた財源の中で、できるだけ設定した指標に100パーセント到達するよう頑張っていきたいと考えています。

★住 民

野中地区には、残念ながら、人が集って人が勉強できる施設が、地区公民館とあぐり館しかありません。その中で、若い人たちが少しでも集って何か出来る場所を、基本計画を作るに当たって考慮していただきたい。極端な話、ゲートボール場でもいいから、天候に左右されずに行事が出来る、屋根のある屋外空間を創出して欲しい。この辺で行事を計画したら、必ず雨が降ったらどうすると言った問題が出て、思い切ったことができない。せっかく若い者が計画したのも水をさす結果になっているので、是非、検討して欲しい。

★司 会

地区のテーマと似通っているので、後ほど、町の回答をお願いしたい。

議題Ⅱ 「野中地区設定のテーマ」

(1) 舟見中学校の統合問題の伴う野中地区の活性化対策について

★住 民

一つ目の要望として、仮称：地区活性化センターの新設についてですが、野中地区は、少子高齢化の進展に伴いまして、先に小学校、保育所、そして、今年3月には舟見中学校の閉校などで、地区全体の元気がほとんど無くなっている。また、今後ますますの地区住民の高齢化が

進み、過疎化が進展するのではないかと心配している。そのため、野中地区の活性化対策として、自治公民館、あるいは、福祉・子育て支援の機能をもった施設の新設を要望いたします。また、野中地区には、地震などの災害時に備えた耐震構造の公共施設がないので、住民の安全・安心を願って、避難施設の速やかな整備をお願いしたい。

あぐり館は、現在、地区内外の人や外国の人に、宿泊施設として開放されているが、築50年が経って管理の面からも存続の検討をしたらどうか。取り壊した跡地に、自治公民館、福祉・子育て支援の機能を持ち、現あぐり館の機能を持った、仮称：野中地区活性化センターを造っていただきたい。

二つ目の要望として、主要地方道黒部朝日公園線、川瀬さんから稲村工務店付近の500メートル区間が、現在施工中です。黒部朝日公園線改良促進協議会を10月27日に立ち上げました。今後は、町長さんをはじめ、野島議員さんをお願いしまして、入善土木事務所や県の土木課へ一緒に要望をしていただければ幸いです。

★教育委員会事務局長

一点目の地区センターについてですが、新たなコミュニティ施設の建設において、今年度、2億円の基金を創設することになっています。それと、冒頭、町長の方から現況報告がありましたが、建て替えが迫られているコミュニティ施設が4地区ある。その4地区で検討委員会の立ち上げをお願いしている。野中地区におきましても、区長会を中心に、すでに検討を進めて頂いているところです。検討委員会では新たな施設の規模や場所などについて、地区の要望を取りまとめて頂くようお願いしております。今後、地区の要望等を踏まえながら、建設に向けて協議していきたいと思います。今後ともご協力お願いいたします。

★建設下水道課長

二点目の県道黒部朝日公園線についてですが、野中地区におきましては、以前から、第一の要望箇所でありまして、町としても県への重点要望の一つとして、毎年、強く要望しております。そのかいありまして、昨年までは県の単独事業でしたが、今年度から国の補助事業になりました。町としても大変喜んでおります。現在、工事が進められている区間は、県道舟見入善線との交差点を含めて、森本宅横まで、約500メートルの区間で海側に歩道を設けた、幅員11メートルの道路を整備していく事業です。県の方では、この区間の完成年度は平成26年度を目標にしていますが、早期完成要望を町の方からも出しているところです。それから、他の区間である中沢・下今江地区につきましても、早期着工を要望しているところです。ただ、県では、財政面から、なかなか今すぐできないということですので、一番幅の狭い野中地区の早期完成を目指したいということです。地区の皆さんにはご理解いただきたいと思います。しかし、入善町の県道の中で一番幅の狭い県道で、さらに、黒部市・朝日町に繋がる重要な通勤道路・連絡道路です。将来、新幹線新駅のアクセス道路にもなる大変重要な路線だと思っていますので、今後も、県に要望をしていきたいと思います。また、野中地区の促進協議会を立ち上げて進んでいくんだということであり、町といたしましても、皆さんと共に力を合わせて、早期完成に向けて取り組んでいきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

☆区長会長

お願いですが、稲村工務店前の交差点、下今江の交差点は信号処理してありますが、非常に事故が多い。この辺りを先に工事をする方法はないか。それと、舟川の橋が、安全・安心と言っておられる割に非常に古いです。今、ダムをやっているが、もし水が出た場合は、あの橋は流されるおそれがあります。それを含めて、安全・安心という面から、例えば、昔だったら交

通安全事業がありました。そういったものを先にやるということ、いろんなことを考えながら、一日も早く、地権者の方、沿線の方の悲願であり、新幹線のアクセス道路、地区の活性化のための道路でもありますので、整備をよろしくお願いします。

(2) 安全、安心のまちづくりについて

★住 民

安全・安心のまちづくりの点から要望をしたいと思います。野中地区は、非常に県道・町道と田んぼの高低差、あるいは、排水路との高低差があって、子供たち・高齢者の方々がもし転落すると少々の事故では終わらない。ひどいところは、死亡事故に繋がるのではないかと思う箇所が、何箇所かあります。今までも、車・自転車等の転落事故があるわけです。幸いなことにひどい事故にはなっていませんが、早急に危険箇所の安全対策をしていただきたい。

具体的に、2箇所の道路の要望をしたい。上今江から西中へ抜ける道路ですが、この道路は路肩が非常に弱く、アスファルトが田んぼに転がっている。1～2年前に、外側線をやり直してもらったが、現在、白線が消えていたり崩れそうな箇所があるので、安全策をお願いします。

それから、朝日公園線の完成が26年とありましたが、それに伴って、ひばり野小学校から三枚橋へ抜ける県道ですが、野中の窪野修一さん宅から、交差点まで止まっている。地区として、安全対策申請を出していますが、この横道路が完成しないと、縦道路に手をつけられないようです。ただ、現状では、道路から排水の川まで約3メートルの高さがあり、そこは、私でも滑ったら繋がる場所がない。小学生の子どもが、通学路として使っており、地区の人や近所の人は、「あまり川のそば、歩かれんよ。田んぼの方、歩かれ」と呼びかけている状況です。子どもが滑り落ちると大変なことになるので、現実的には、黒部朝日公園線の完成後に縦道路の整備となるのかもしれませんが、先に安全柵の設置をして欲しい。

★住 民

スクールバスの変更について、今、野中の宮からあぐり館の横を通っていますが、野中の宮から上今江、下今江を通して野中へ出るように変更してもらえないだろうか。

★建設下水道課長

一つ目の、上今江から西中へ向かっている、町道上今江西中線という道路ですが、路肩がかなり傷んでいることは、前から承知しているところで、以前から地区の要望を受けています。今、西中から順に整備をしている状況であり、まだ残っていますが、町では、2か年度をかけてかなり進めていきたいと考えています。路肩のアスファルトが割れて、かなり田んぼに落ちている状況がありまして、かなりひどい状況ですので、今年度は、特に痛みの激しいところから優先的に路肩の整備を進めていきたい。今年度である程度やって、残っているところ、舟川の辺りを来年度にやっていきたいと考えています。

安全柵の事です、危険性と優先度を見ながら検討して整備を進めています。入善町には、132地区ありまして、年間200件を超える非常に多くの要望があるため、順番待ちもあります。危険性の高い所から順に整備していきたいと考えています。

★教育委員会事務局長

スクールバスの変更ですが、運行路線は、統合時に検討させていただいた経過があり、自転車小屋も設置したところもあります。徒歩や自転車を利用させていただきまして、今の乗り場で乗降していただければと思います。現行運行で対応していきたいと考えています。今後ですが、どの地区で中学生が多くなるのか見極めて検討していきたいと思いますので、ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

☆司 会

野中地区の道路は、排水路と3メートルの高低差があります。通学路にもなっているので、前向きではなく、早急に手掛けていただきたいと思います。一点目の路肩の件につきましても、4年ほど前から要望していることなので、2年間かけてと言われましたが、野中地区は何かと我慢してきている地区なので、できるだけ早くやっていただきたいと思います。

(3) 生活・環境等の改善について

☆住 民

生活環境の改善についての質問をしますが、生ゴミ・籾殻を活用した大型コンポスト、有機肥料化のモデル事業ができないか。家庭ゴミの減量化とコンポスト化の推進です。二つ目は、粗大ゴミを出すときは、その都度、町の許可を必要とするが、それを廃止できないか。対応としまして、町のチェックを受けて、許可証を持って広域圏に行くことになっているが、時間の無駄である。広域圏は、チェックが出来ないのか。このシステムを変えてほしい。

★住民環境課長

生ゴミのコンポスト化事業につきましては、循環型社会の構築、ゴミの減量のために注目を集めています。各家庭から排出される生ゴミの堆肥化には、ゴミの分別の徹底が必要と考えています。また、これを利用して、農業者のニーズを把握し、減農薬・減科学肥料農業に取り組むことができる環境整備も必要と考えています。この両方を合わせて、検討していくことが大事かと思っています。町では、生ゴミ処理機設置補助の導入や、町報11月号にも載っていますが、連合婦人会さんが段ボールコンポストの普及、啓発を努めておられます。これらの実施により、家庭から生ゴミの減量を推進し、ゴミ処理の軽減にあたっていければよいと考えています。

2点目の、新川広域圏で運営する宮沢清掃センターの粗大ゴミの搬入日は、毎月2回の決められた日となっております。それ以外はビニール・プラスチックの搬入となっております。指定された日以外に持ち込まれることや、処理できないものが搬入される事例があるため、それぞれの町で確認し、許可証を発行して持ち込んでいただいているところです。今後、住民の円滑な利用を図るため、広域圏事務組合へ課題を提案し、関係する二市二町で検討していきたいと思いますので、ご理解をお願いします。

☆住 民

いったい広域圏とは何だということです。広域圏の機能を町ができないのかということを踏まえて、検討をお願いしたいと思います。

★住民環境課長

現実的には、新川広域圏の広報も足りないかもしれませんが、決められた通りに事が運んでいないからこのような制度になっていると思います。町のチェック・許可なく持ち込んで、駄目でそのまま帰って来なければならない不都合もありますので、どこで引き返すかということになりますが、事前の決められたルール通りの方が一番良いということで、正しい持ち込み方、啓発については、広域圏事務局に要望していきたいと思います。

○その他

★住 民

地域コミュニティパートナーシップ構築事業について、10月28日に女性議会の質問事項の中に、今年、町では、野中地区と梶山地区がこの事業の対象になっているとお聞きしました。野中地区の女性としては、このことについてまだ良く知りません。これはどのような事業であり、現在、野中地区としてどのような構築状況なのか、女性としての関わり等を教えてください。

★総務課長

今ほど話がありましたように、女性議会でも、パートナーシップのことを提言いただきました。横文字でわかりにくいところもありますが、地域活動につきまして、自助、共助を中心に、公助・役場がすべきことを、お互いに理解しながらまちづくりをしていこうと言うことが基本スタンスで、町と地域とが協働で行っていく事業であります。女性議会での趣旨につきましては、女性の立場としてこのパートナーシップに積極的に関わっていきたいというご提言であります。区長会にお話をし、今年度は、野中地区と梶山地区に決定していただきました。今現在は、地区のこと、役場がすすめるまちづくりにつきましては、その地区にお願いする場合には、その中心が区長さん、あるいは公民館の活動、それから、社会福祉関係の活動になります。その中でも、区長さんが中心になって担っていただいているのが多いと思っています。これは、野中地区だけではなく、入善町内が全てそういう傾向が強くなってきています。特に婦人層につきましても、婦人会組織がなくなってきて、青年団等も活動がないという状況です。今後の地域づくりを、しっかりと地域の中で担っていただくため、地区が主体で考えていただき、町は、必要な資料の提供や必要な視察に協力して、意見を出しながら共に研究していきますが、あくまでも、その地区を主体にどういう地域づくりをしていくか、それから、地区の意思決定をどうするか、組織づくりを含めて、この事業をお願いしています。なかなか途中で、形で現われていないので分かりにくいですが、また、区長さんを中心に、地元の方、女性の方の力もお借りしながら、ご協力いただければと思います。

★企画財政課長

補足ですが、日頃、町長が心配しているのは、このままだと地域コミュニティがどうなるのか、少子高齢化が進み、若い人たちが少なくなっていく。地域を担っていく人たち、組織が、それぞれの地域にあった地域コミュニティの組織づくりを、今後どう構築していくのか、それを地域の方々に考えていただきたい。現在は各々の組織がそれぞれ活動しておられます。しかし、地域を考えれば、全体で横の繋がりをもって、組織づくりが考えられるのではないかと。また一方、地域によっては規模も運営の仕方も違ってきます。そこで、1年間かけて、新しい地域コミュニティをどうやって運営していくのか、継続できる組織の姿を見つけていただくために、この事業をお願いしました。

★区長会長

野中地区では、各種団体長が集まって、議論をしております。仮称：地区活性化センターを中心としながら、今後どうするかということを含めて、先般、区長さんを通じてアンケート調査を実施しております。そういうものを作るための先進地の公民館の視察もどうか、アンケート調査結果を踏まえながら、皆さんと話をしながら、野中の在り方、今後の運営の仕方等を含めて検討していきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

☆住 民

何年か前に、防災に対して、役割分担した一覧表の作成をしましたが、現在更新されているのか、その後どうなっているのか。作成当時、多岐にわたってきめ細かい救護・防災体制が取られていて非常に良かったように思いますが、残念ながら、野中地区にはそれに耐えられるだけの人がいないため、高齢者・子どもを除いた人を出さないと、そろわない状態のものを作ったように思います。誰を守るために作るのかと議論した記憶がありますが、その後、新しく改良したところや、具体的にこの辺を効率良くやりましょうという具体的な話もなく今まできている。最近、広報や防災無線でも、積極的な声かけをして、情報がよく伝わるようになっていと思っていますが、肝心の住民のシフト面が一度やったきりになっているので、セレモニーになっていないか。もし、具体的なことがあればお聞きしたい。

☆司 会

私、防災の事務局も預かっているのですが、2年に1回総会を開催していて、防災の組織網として、役員の方は2年に1回変わっています。区長から要職の方になっていただいたり、消防の方には、災害対策班に入っていていただいております。今後企画を考え、活性化を図りたいと思います。

★総務課長

当時、役場が主導して自主防災組織を作っていただきました。防犯も非常にやかましくなってきた時期がありまして、各地区に防犯パトロール隊の設置をしていただきました。お陰様で全地区に完成しましたが、作るのは大変パワーがいりますが、その後どのように継続していくか、当初は作ることに精一杯であったように思いますが、その後の継続については、その地区に合ったものが必要ではないかと思っています。それと、行政の都合で、これまで防犯パトロール隊・自主防災会を作っていただきました。そして、いくつも組織があり、そのあり方や、地域で安全・安心がどうあるべきかも含めて、パートナーシップの事業の中で今後のあり方もご検討いただければと思っています。

自主防災組織に関しては、組織だけの運営ですと非常に難しいという面があります。町内の中では、1年に1度、定期的に自主防災会が主体となった防災訓練の実施と、各町内持ち回りの小規模な防災訓練を実施する中で、日頃から自主防災会の意識を高めているところもあり、一つの方法と思っています。また、こういう活動が広まっていけばと考え、町もサポートさせていただければと思っています。

☆司 会

地区でも、2年に1回ずつ、地域住民の皆さんと防災訓練をして行こうと申し合わせていて、過去2回、地区住民の皆さんに訓練していただきました。

☆住 民

中学校の通学の件ですが、野中・舟見地区の自転車通学がだめだと聞いていますが、父兄の方2名から「なんとかならないか」と言ってこられました。

もう1点は、一人暮らしの方が買い物に行くのに、のらんマイ・カーの乗り場まで行くのが大変だと聞いています。何か良い案があれば、聞かせて欲しい。例えば、本人が注文すれば、配達してくれるようなものがあれば助かるなど聞いています。介護の支援の中に入れば、ヘルパーさんに頼んだりできるのですが、そこに入らないで、たまたま怪我をしたりして1ヶ月も動けなかったという話もあって、そのとき自助共助で友達にお願いして買って来てもらったが、あまりにも甘えてばかりいられないので、何か話ができれば聞かせて欲しい。

★教育委員会事務局長

中学生の自転車通学ですが、たぶん部活のときに、自転車通学で通った生徒もいると聞いております。これは、校長と協議をされて許可が出れば、部活に関しては了解したところもあります。通常の通学につきましては、スクールバスを利用させていただくよう考えていますので、よろしくお願いします。

★健康福祉課長

高齢者が買い物に行けないというのは、野中地区に限った問題ではなく、入善町全体で事例が多くなってきています。その中で、どういう方法が良いのか検討を重ねています。この問題は、なかなかすぐ解決する問題ではありませんが、現状は、近所の方について回って買ってきていただくのが一番良いのかなと思いますが、この問題は、まだ解決策としてご提案できる段階ではありませんので、町においても考えているということで、ご理解いただきたいと思います。

★住 民

あぐり館のグラウンドの水はけが非常に悪く、排水がありますがつぶれて水が溜まるような状況なので、整備をお願いしたい。

それから、昔は各小学校にスキー山を造りましたが、スキー山を撤去していただけないか。それと合わせて、旧保育所にポンプ・取水施設があって、グラウンドのど真ん中にポンプ場みたいなピット型のものがありますが、子ども達に非常に危なく、年に一度の体育大会もやっているのに、体協の方からも使い勝手が悪いという意見も出ていますので、撤去をお願いしたい。

★企画財政課長

最終的には、地区活性化センターをどこに造るのかというレイアウトによって、今のグラウンドや公園の形をどうすればよいのかを考えなければいけないと思っています。スキー山につきましては、他の話もありますが、地元の方が撤去となればそうなりますが、他の利用ということも県道がらみで今来ているので、そういったことも含めて、また検討したいと思います。それと、ポンプですが、野中簡水に加入の区長さんには話が行っているんだと思いますが、野中地区はなかなか水源が見つからないので、水源不足、管の老朽化も当然ありますので、今第一水源池だけでもぎりぎりの水量となっています。旧野中小学校プールのポンプが現在生きている状況です。使用状況も考えて、撤去の方も考えたいと思います。あぐり館の施設においても、そこから供給しなくてはいけないということもあるので、総合的に考慮し、検討していきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

協働のまちづくり

ご意見カード

～皆様からの主な意見・提言～

回収総数・・・１０３件

【防犯対策】

- ・ 外灯のＬＥＤ化の推進
- ・ 防犯灯をもっと増やして欲しい。

【地域コミュニティ対策】

- ・ 婦人会に入会しない方が多くなり、そのことで人と人とのきずなが細くなってきた。行政の指導も必要か。

【環境対策】

- ・ カラスが昔に比べずいぶん多くなったように思います。駆除を農繁期前、早めをお願いします。
- ・ 用水発電を考えて欲しい。
- ・ 野焼き禁止により屋敷林を守ることが困難になった。この対策を聞かせて欲しい。

【産業対策】

- ・ 米問題に対しては、株ウーケを支援し、輸出の道を拓いて欲しい。
- ・ ＴＰＰへの参加により関税が撤廃され農業へのダメージは計り知れない。農村の崩壊は町の崩壊になる。今のうちに低コスト低プライスに耐えることのできる農業基盤を、町独自で考えておくべきだと思う。
- ・ Ｂ級グルメ大会に参加できるものを作るべきだ。町の発展には、米を中心にしたグルメを作るべき。

【交通基盤】

- ・ 通勤するためにＪＲを利用しているが、駐車場が少ないので勤務先まで行き、その付近で駐車場を借りている人が多い。

【健康対策】

- ・ 近々の新聞で、当町が自殺率県下ワースト１という、不名誉な記事がのってました。町当局として、その原因や対策について、町民が安心して暮らせるような具体策を聞かせて欲しい。

【伝統文化】

- ・ まつり等の用具などに補助金を多く出して欲しい。

【高齢者対策】

- ・ 自家用車が使えなくなった。高齢者の買い物の支援を考えて欲しい。（スーパーが遠い所の人のために。雨・雪の日など大変だと思う。）
- ・ 高齢者がいつでも集える場所を各地区に作ってもらいたいと思います。

【まちづくり懇談会】

- ・ スマートＩＣの駐車場を、道の駅、ハイウェイオアシスとして利用できないか。レンタサイクルなどを完備し、点在する町の見所を回れるようにしてはどうか。自然を満喫できるハード面、ソフト面の充実を図り、町に外貨が落ちるようなまちづくりを考えて欲しい。
- ・ 新総合計画は、大変立派に策定されている。美辞麗句にとどまらず、実のある策になることを期待しています。



まちづくり懇談会の記録誌は、入善町ホームページ上にも掲載されています。

【URL】<http://www.town.nyuzen.toyama.jp/>